

体験発見

林業の仕事

未来の担い手を育てよう 林業就業促進事例集



全国林業研究グループ連絡協議会

体験発見 林業の仕事

未来の担い手を育てよう 林業就業促進事例集



全国林業研究グループ連絡協議会

2 年以上にわたるコロナ禍により私たちの日々の生活も大きく変化しました。密閉・密集・密接しない「3密回避」が求められる一方で、自然のロケーションを前提としたアウトドアがブームとなっており、人々の関心が自然に向いてきているといえます。

また、自然豊かな地方で働くという選択も注目され、改めて就業先としての林業への関心が高まっています。

そのようななか、私たち全国の林業研究グループメンバーは、いかに若者たちに林業を知ってもらい、仕事として認識してもらえよう働きかけていくかが重要になると考えています。林業の仕事の魅力を伝え、就業希望者のすそ野を広げ、現場での技術指導等を通じて林業教育を支援するなど、私たち林研グループだからこそできる様々な活動があります。

今年度も、これからの林業を支える人材育成に寄与するため、一丸となって未来の林業を支える林業後継者養成事業を推進する運動を繰り広げてきました。地域の林業後継者や将来を担う未来の就業者、新たに林業に就業したい方々、そして女性に向けた様々な支援活動です。

昨年度に続き、コロナ禍にあつて様々な条件の制約はありましたが、高校生や大学生など若い層を対象としたインターシップ、林業経営・就業体験、林業技術研修などを実践してきました。そして地域の林業全般に関わる業種に触れ、就業先の選択の1つとして林業という仕事の魅力を心に刻んでもらうことができました。

また、女性の林業就業を支援する活動も全国に広がりました。体力面での男女差を考慮するなかで、林研グループの活動から、安全

に、無理なく働ける就業環境づくりの工夫やアイデアが生まれ、男女共通の魅力ある職場づくりに寄与する成果も生まれています。

このような全国での支援活動は、私たちの仲間だけで実行できるものではありません。高校や大学等、地域の教育関係者、そして技術指導などを支援する林業関係者の方々の理解と協力を得て、はじめて効果のある活動づくりが可能になります。

本書は、後継者の育成支援、林業就業促進支援等はもちろん、林研グループ等の活動、さらには地域の仕事創出支援に欠かせない生産技術や流通・販売ノウハウ等を実践事例から紹介しました。

机上では得られない実践のためのノウハウ、ヒントの数々が盛り込まれています。地域での林業後継者づくりにつなげるためにも、また、地域の教育機関とも連携した活動のために、ぜひ本書を役立てていただければ幸いです。

本書の取りまとめに当たりましては、コロナ禍でご苦労をされながら進めてくださいました、林業関係高校・大学校等教育機関、都道府県林業普及指導員、市町村、森林組合、森林所有者の皆さん、全国林業改良普及協会ほか、多くの方々にご協力を賜りました。ここに深く感謝いたします。

令和4年3月

全国林業研究グループ連絡協議会

会長 齋藤 正

まえがき…………… 3

第1部 森林と林業の仕事を伝える

高校生等の林業就業促進現地活動

間伐・高性能林業機械実習で

先輩方の生の声を聴く

茨城県林業研究グループ連絡協議会「茨城県」…………… 8

デジタルコンパス、GNSS受信機

最新IT技術の山林管理と現場を学ぶ

みかも千年の森づくり会「栃木県」…………… 12

アンケートに見る

高校生・林業大学校生の林業実習

木曾林業研究グループ連絡協議会「長野県」…………… 16

林業系への就職を目指す学生、

林業伝統地で製材所見学と伐倒体験

加子母^{かしも}優良材生産クラブ「岐阜県」…………… 22

高校生の学びの意欲に応える

指導林家による林業体験学習

愛知県指導林家連絡協議会「愛知県」…………… 26

基礎の座学から技術実習、ICTまで

久万林業地のインターンシップ

上^{かみ}浮^{うけ}六^む林業研究グループ連絡協議会「愛媛県」…………… 30

チエーンソーメンテナンスと
ジビエ料理体験交流で担い手育成
八代地域林業研究・普及連絡協議会
やつしろ林業研究グループ部会〔熊本県〕……………34

林業グループの林業振興活動支援
楽しく、無理なく、継続
薪・炭・竹で里山林を循環
なかい里山研究会〔神奈川県〕……………38

安全意識と技術をより高めて
チエーンソー整備・作業講習会
大井川地区林業研究協議会〔静岡県〕……………42

第2部 山づくり 人づくり ものづくり チャレンジ！

私たちのニューフェイス
ゆくゆくは所有林の管理を。
林研活動で交流と見識を深めたい。
エンジョイ・フォレスト女性林研〔東京都〕
／小澤未夏子さん……………48

私たちのチャレンジ！
儲かる林業をつくる！
“ゼーザイゲーム”
熊野林星会〔三重県〕……………52

実践するリーダー
SDGsを学ぶ

仙人だからこそ！
観光地の景観を整備
対馬林業研究会〔長崎県〕……………54

地域と森をつなぐ活動
仙南フォレストクラブ〔宮城県〕／海藤節生さん……………50

Tree house Project

(ツリーハウスプロジェクト)

本荘由利森林組合林業研究会「秋田県」……………56

高校生対象の「スマート林業」研修

日光地区木材流通研究会「栃木県」……………58

オオムラサキの舞う里山林を再生

自然とオオムラサキに親しむ会「山梨県」……………60

早生樹(センダン)育林への挑戦

諸塚村林業研究グループ会議「宮崎県」……………62

定年をきっかけに里山の山守を！

安養寺新割り倶楽部「福井県」……………64

キリ玉植苗で森林緩衝帯の整備

会津里山森林資源育成研究会「福島県」……………66

安全講習会・ミツマタ植栽・環境教育

北条女性林業研究グループ

「風早の森ころぼっくる」 「愛媛県」……………68

優良材生産技術の研鑽と担い手の育成

新見市新林業経営者クラブ「岡山県」……………70

巻末資料

林業で働くために……………74

森林・林業に関する学科・科目設置校一覧表(林業大学校・専門職短期大学)……………76

令和3年度未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧……………77

林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧……………79

第1部

森林と林業の 仕事を伝える

高校生等の林業就業促進現地活動
林業グループの林業振興活動支援

間伐・高性能林業機械実習で 先輩方の生の声を聴く

茨城県林業研究グループ連絡協議会「茨城県」



先輩方と生徒たち。
50名を超える間伐実習を終えての集合写真

なお、大子町林研が活動している大子町は、茨城県の北西部に位置し、北は福島県、西は栃木県に接しています。町の面積3万2600haのうち森林が約8割を占め、人工林率は69%。八溝杉やまぎが有名で、茨城県を代表する林業地になっています。

県内で唯一林業を学べる清流高校

清流高校は県内で唯一林業を学べる高校です。大子町の大子第一高等学校、第二高等学校の精神を受け継いで平成16年に開校しました。森林学科と総合学科の2学科でスタートし、現在は農林科学科（1クラス）と総合学科（2クラス）に再編されています。

農林科学科は2年生から、森林・林業を学ぶ森林科学コースと農業・食品加工を学ぶ農業科学コースに分かれます。この農林科学科の生徒は、大子町出身者を中心に県中北部や隣接県からも集まっており、里親制度により全国から生徒を募集しているのが特徴です。大子町林研の戸辺洋一顧問

16年目を迎えた 林業高校生の実習支援

第5波のコロナ感染者がかなり

減ってきた10月19、20日の2日間、

茨城県林業研究グループ連絡協議

会（あきやまよいち 稚山與市会長、以下、県林

研）では、地元の大子町林研グループ（ふたなみねいちろう 二方峰一郎会長、以下、大子町林研）の全面的な協力を得て、茨城県立大子清流高等学校（以下、清流高校）の間伐や高性能林業機械の体験実習を支援しました。県林研は県内13の林業研究グループから組織されている団体です。清流高校への支援は平成18年度からで、今回が16年目になります。大子町林研はその会員の大半がこの清流高校の卒業生で、この体験実習は先輩たちが後輩に直接、林業の仕事を伝える取り組みと云っていいと思います。

林研の会員数は現在、30代の若手が加わったことなどで25名になりました。主な活動は清流高校の林業体験実習の支援のほかに、巡回による間伐推進があります。



前列左が県林研の穂山会長、右が天子町林研の戸辺顧問。
後列左が県の松浦指導員、中央が天子町林研の二方会長、
右が清流高校の菊池教諭



作業の手順や安全作業についての説明を聴く

い、玉切り、林内集積、チェーンソーの目立て等を実践しながら、「体験を通して林業の担い手としての意識や知識・技術を身につける」とことが目的です。

この実習には生徒たちに加え、清流高校の教諭、天子町林研の会員、県林研、茨城県林業技術センター、天子林業指導所の方が参加し、総勢50名を超える大所帯となりました。

関係者が全員そろった午前9時半頃、県林研の穂山会長の挨拶から実習がスタートしました。実習地は40〜50年生のスギ林です。

実習では、まず天子町林研の会員が中心になって伐倒のデモンストラーションを行いました。伐倒方向の定め方、受け口、追い口の作り方、玉切りの仕方など一連の

は「天子町は昭和30年頃に4万人あまりもいた人口が、今では1万6000人に減ってきています。高校生も町外の学校に通う生徒が増えて、母校の林業を学ぶ清流高校の生徒も減少傾向にあります。そんな状況ですので、少しでも母校のお役に立てればと思って活動しています。そのことが林業や地域の活性化につながればと思っています」と話します。

11月下旬、この体験実習に関わった5名の方（県林研の穂山会長、天子町林研の戸辺顧問、二方会長、清流高校の菊池教諭、茨城県林業技術センターの松浦専門技術指導

員）に清流高校に集まっていたいただき、お話を伺いました。穂山会長を除いた4名が清流高校のOBです。

林研、高校、県の連携で実習

10月19日、農林科学科の全学年32名（欠席者4名）を対象にして、学校が管理する近くの演習林で間伐実習が行われました。伐倒、枝払



伐倒の姿勢や刃の角度などを直に教わる



午後には目立て作業のレクチャー

作業の説明を行うとともに、安全に作業することについても指導しました。

その後、6班に分かれて、生徒たちが実際にチェーンソーを使い、伐倒、枝払い、玉切りまでの作業を行いました。この班別の実習では林研会員が各班に1、2名付いて進めていきます。

チェーンソーによる伐倒作業は、労働安全衛生特別教育修了者である2、3年生を中心に、1年生および手の空いている生徒は枝払いや集積等を行いました。

2、3年生は学内でチェーンソーに触れる機会はあるものの、山の現場で扱うのは年に数回のため、緊張した面持ちで取り組みました。生徒たちは、伐倒した木の枝払い、玉切り、集積までを一通り体験しました。1年生にとっては足場の良くない山での初めての作業となるため、1つ1つの動作を考えながら進めていくのに対して、3年生は手慣れた様子で伐倒から集積までをこなしていました。

昼食後には各班で目立て実習が行われました。「チェーンソーの刃が切れなくなると疲労も危険も

増すので、目立てはとても大切な作業の1つということを伝えながら指導しました」と稚山会長は話します。

大子町森林組合の現場で 高性能林業機械の 操作実習

間伐実習翌日の20日には、2年生11名を対象に高性能林業機械の操作実習が行われました。場所は大子町林研の戸辺顧問が働いてい

る大子町森林組合の現場です。

現場にそろっているプロセッサ、フォワード、グラップルについて、戸辺顧問がそれぞれの機械の機能や働きを説明するとともに、デモンストラクションが行われました。



林研会員から機械操作を学ぶ

その後は、3班に分かれて生徒たちが林業機械の操作を体験し、午後には生徒たちが自由に機械を選んで操作できる時間にとられました。この指導には戸辺顧問らが当たりましたが、その中には椎名



間伐現場での操作実習

琴絵さんもいました。彼女は3年ほど前に森林科学科を卒業したOGです。

戸辺顧問は「生徒たちはゲーム世代なので機器類の操作に慣れていて、高性能林業機械の操作でも覚えが早いですね」と言います。

生の声を聴き 林業関連に進む

清流高校の体験実習への支援は2日間と限られていますが、生徒たちにとっては忘れられない時間



ゲーム世代は機器類の操作の覚えが早い

「清流高校の菊池教諭は「現場の技術に触れることも重要ですが、林業に従事されている方の生の声を聴くことにより、生徒自身が自分の就業する姿を具体的に想像できるのではないかと考えています。学校での実習をはるかに超える実践がここにあるので、非常に貴重な機会であると考えています」と語ってくれました。

体験実習後の生徒によるアンケート

「トでも、実習のお礼とともに、「楽しかった」「いい経験になった」「勉強になった」などの感想が寄せられていました。表は森林科学科・農林科学科の卒業生の進路先の推移で、林業等に関するものを列挙したものです。年度によって生徒数が増減し、林業関連に進む生徒も増え

表 森林科学科・農林科学科の卒業生進路先（卒業時点）

卒業年月	性別	系列	進路先	生徒数
平成31年3月	女	森林科学	宇都宮大学農学部森林科学科	4名
	男	森林科学	日本大学工学部土木工学科	
令和2年3月	男	森林科学	株式会社 スズキアムテック	15名
	男	森林科学	大子町森林組合	
	男	農業科学	油研工業株式会社 袋田工場	
令和3年3月	男	森林科学	宮の郷木材事業協同組合	7名
	男	農業科学	茨城県農業大学校 農学科	
	女	森林科学	長野県林業大学校	
令和4年3月 (R3.11月現在)	男	森林科学	日立建機 株式会社	16名
	男	森林科学	宮の郷木材事業協同組合	
	男	森林科学	細田木材工業 株式会社	
	男	森林科学	油研工業株式会社 袋田工場	
	男	森林科学	宮の郷木材事業協同組合	

- (1) 進路先は林業等に関するもの
- (2) 平成31年3月の生徒数（卒業生）は森林科学科。学科再編により翌年度からの生徒数は農林科学科（森林科学と農業科学の系列）になる。

「楽しかった」「いい経験になった」「勉強になった」などの感想が寄せられていました。表は森林科学科・農林科学科の卒業生の進路先の推移で、林業等に関するものを列挙したものです。年度によって生徒数が増減し、林業関連に進む生徒も増え

「楽しかった」「いい経験になった」「勉強になった」などの感想が寄せられていました。表は森林科学科・農林科学科の卒業生の進路先の推移で、林業等に関するものを列挙したものです。年度によって生徒数が増減し、林業関連に進む生徒も増え

「楽しかった」「いい経験になった」「勉強になった」などの感想が寄せられていました。表は森林科学科・農林科学科の卒業生の進路先の推移で、林業等に関するものを列挙したものです。年度によって生徒数が増減し、林業関連に進む生徒も増え

高校でドローンの資格取得は全国初

業科学コースの生徒が10名。令和3年11月時点の予定ですが、森林科学コースの生徒6名のうち5名が地元の木材事業協同組合や重機メーカーなどに進む予定です。

ところで、今回の体験実習から話がそれますが、清流高校では森林科学コースの3年生、6名が、10月下旬に国土交通省認定のドローン操縦士資格「回転翼3級」の最終試験に臨み、全員が合格を果たしました。高校の授業の一環としてドローンの操縦方法などを学び、資格を取得したのは全国初のケースでした。

同校では令和2年度から、町や林野庁の協力も得て計32時間のカリキュラムを組み、ドローン教育を本格化させています。

＊まとめ 編集部
写真提供 茨城県林業技術センター
・大子清流高等学校

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

デジタルコンパス、GNSS受信機 最新IT技術の山林管理と現場を学ぶ みかも千年の森づくり会「栃木県」



ドローンで森林の上空から写真を撮影する学生

林業の「知恵」や「知識」を
次世代に継承

みかも千年の森づくり会（湯澤

有会長、以下、当会）が活動す

る佐野市野上地域は森林率が90%

と高く、かつては林業や炭焼きを

基幹とする山仕事で栄えた地域で

す。伐り出された良質な木材は「み

かも材」としてブランド化されて

います。しかし地域では長年の木

材価格の低下や、高齢化、過疎化

が進み、林業に対する関心や意欲

が低下しているのが現状です。

当会では地域で課題となってい

る「後継者問題」「境界問題」「林

業の人材育成」「古来からの技術

の伝承」を活動テーマに掲げ、幅

広い職種で構成された林業の経験

豊富な地元の山主が会員となり、

地域林業の活性化に向けた活動を

行っています。

また、林業の「知恵」や「知識」

を次世代に継承する後継者育成活

動として、毎年、地元の宇都宮大

学農学部森林科学科の学生を対象

としたインターンシップを実施し

ています。

最新のIT技術を用いた
山林管理を体験

今年度はコロナウイルス感染症

拡大により当初の日程から1カ月

遅れの10月26日～28日の3日間で

実施しました。内容は民間事業体

の日常業務の体験をテーマにした、

デジタルコンパスや高精度GNSS

S受信機による測量、ドローン

を使った森林情報の取得、チェー

ンソーによる間伐体験です。最新の

技術を使った山林管理の実務から、

現場での間伐体験までを3日間

行います。

今回参加した学生は6名。募集

チラシを掲示板に掲載すると募集

人数5名のところすぐに定員にな

り、1名追加の要望があり6名に

なりました。

1日目はオリエンテーション、



みかも千年の森づくり会主催
インターンシップ 学生募集

民間事業者の就業体験！ In佐野

民間事業者の日常業務を体験するインターンシップです。内容は、チェーンソーによる間伐やデジタルコンパスや高精度GNSS受信機による測量体験、ドローンによる撮影と画像処理による森林情報の取得などです。ご興味のある方はぜひご参加ください。

■日時 2021年9月27日(月)～29日(水)計3日間
午前9時30分から午後4時

■実習場所 佐野市内 伐採現場・会議室

■募集対象 森林科学科 3年生、他希望者

■募集人数 5名

■締め切り 7月30日(金)

■応募方法 森林科学科事務室

■問い合わせ みかも千年の森づくり会事務局 担当：平沢
TEL
Email

詳しい予定につきましては申込み後に別途ご案内します。

インターンシップの募集チラシ



ドローンによる写真測量の講義を受ける

デジタルコンパスと高精度GNSS受信機による測量、ドローンの操縦体験と写真測量の実習です。オリエンテーションでは学生に「出身地」「大学入学の志望動機」「将来の進路」の内容で自己紹介をしてもらいました。将来の進路では参加者全員が公務員を志望し、民間会社等の志望者は1人もいなかったのが少し残念でした。続いて実習に移る前にデジタル

コンパス、GNSS測量の仕組みと機器類の使い方、またドローンでは航空法や操縦時の注意事項、写真測量の技術について講義を行いました。午後は実習現場に移動し、はじめはデジタルコンパスの測量実習です。ボタン操作で瞬時に計測とデータの記録、計算までができるデジタルコンパスの測量技術と、大学の授業で学んだポケットコン

パス測量との違いに、学生全員が驚嘆の声を上げていました。次にドローンの操縦体験です。全員がドローンを操縦するのは初めてのことでしたが、すぐに操作に慣れ、思い思いの飛行を楽しみました。また学生たちはモニター画面に映る普段見ることのできない上空からの鮮明な森林の映像を確認すると、林業の現場でドローンが大変有用であることが理解で

きたようです。ドローンの操縦に慣れたところで、次はドローンによる写真の撮影です。起伏のある地形での撮影方法や注意する点について説明を行い、手動での撮影と自動飛行による撮影を体験しました。その後会場に戻り、撮影した画像を画像処理ソフトでオルソ画像を作成する手順を説明し、学生がソフトウェアで画像処理の設定までを行っ

その後、夜の間画像処理を行いました。どんな成果がでるか楽しみます。

画期的！ ドローンによる写真測量 からデータの作成まで

2日目ははじめに前日デジタルコンパスで測量した測量成果の作成です。パソコンでデータを処理し、提出用の図面や野帳、GIS用のデータの作成を行いました。学生たちは測量からデータの作成までの一連を体験し、ポケットコンパスと比較して測量やデータ処理の時間が大幅に短縮できることや、簡単に図面が作成できることに感激した様子でした。

次にドローンで撮影した画像から作成したオルソ画像からの測量データの作成です。前日に処理して作成したオルソ画像をもとに、GIS上で測量データを作成する最新の測量技術を学びました。

また、オルソ画像の副生成物として作成される3Dデータをパソコン画面に表示すると学生の口から思わず「オッ！」という声。学生たちが撮影した画像が3次元

モデルになり、パソコン上で自由な視点で表示できることに衝撃を受けたようです。これからの山林管理には欠かせない技術であると理解できたようです。

高性能林業機械の 操縦体験も

午後は近くの山林で開催されていたICTハーベスタの研修会に飛び入りで参加しました。スマート林業の推進に欠かせないシステムを有した最新の林業機械ということもあり、県内の林業関係者が大勢参加されていました。

高性能林業機械の操縦体験では参加した学生たちが指名され、機械メーカーの方に操縦方法を教わりながら、採材プランに応じた造材作業を体験しました。普段大学の実習でもあまり高性能林業機械を操縦する機会はないので、貴重な経験ができたようです。

間伐体験で 現場を知る

最終日の3日目はチェーンソーの間伐体験です。間伐を行う現場は2019年に当会と地元企業、



チェーンソーの目立てについて指導を受ける

し、間伐する木の選木です。「どの木を残す?」「どうしてこの木を選んだの?」「残す木と間伐する木の選定方法をクイズ形式で学生にわかりやすく説明しました。いよいよチェーンソーによる木の伐倒です。チェーンソーの構え

佐野市、栃木県の4者で協定を締結した企業の森づくり活動「みよしの森」です。「みよしの森」は佐野市の市有林で、主に間伐による山林の手入れと森林環境教育活動を行う場として活用しています。はじめに伐倒を行う前にチェーンソーの構造の説明があり、その後、ソーチェーンの目立てを講師の指導のもと、学生1人1人が行いました。次に間伐の現場に移動

け口の入れ方を細かく指導しながら狙った方向に伐倒を行いました。チェーンソーに集中し過ぎて周りの状況が確認できていない時は厳しく注意し、安全に作業を行うことを徹底して指導しました。最後の作業として枝払いと玉切りを行い、明るくなった林内を見わたすと学生の顔に笑みがこぼれていました。充実した3日間のインターンシップが無事終了しました。



学生たちと講師役の会員たち。
企業の森「みよしの森」の看板の前で記念撮影

進路希望への 選択肢は様々 現場で学ぶことで 見つめ直すきっかけに

大学に募集のあるインターンシップはほとんどが官公庁です。当
会が実施する民間事業者の業務体
験の目的には、就職先には官公庁

や森林組合、素材生産、製材会社
だけでなく、森林の管理や調査、
データ作成、サービス開発を行っ
ている企業など、もっとたくさん
の林業に関わる企業があることを
知っていたかどうかでもあります。
職業の選択肢が広がり、林業を学
んだ学生が多方面で活躍してほし
いと思っています。



刈払機の刃の目立ても行った

また実際には学生の半数以上は
公務員に就きますが、インターン
シップでの民間事業者の業務体験
が将来の実務で必ず生きると思っ
ています。
後日、学生から届いた手紙には
「このインターンシップを通じて
学校で学んだ技術を活用できる選
択肢が数多く存在していることに
気づき、自分自身を見つめ直す良
い機会となりました」「森林科学
科では公務員の進路を希望する者

て、新たな時代の林業を切り拓く
人材育成を今後も続けていきたい
と思います。

*まとめ

みかも千年の森づくり会
事務局 平沢健次

が多く、自分も
その1人でした
が、今回のイン
ターンシップを
機に、企業への
就職も進路志望
の1つとなりま
した」などが書
かれていました。
3日間の短い期
間でしたが、参
加した学生たち
には、当会の思
いが届いたよう
です。いただい
た手紙を今後の
活動の活力にし

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例



写真1 息を合わせて、搬出作業を行う林大生

アンケートに見る 高校生・林業大学校生の林業実習

木曽林業研究グループ連絡協議会「長野県」

林業後継者育成に向けた
高校と大学校への実習支援

木曽林業研究グループ連絡協議会（以下、協議会）は、地域林業の振興を目的として、木曽地域の林研5団体が集まり、会員相互の情報交換・交流・各種研修会の開催などを行っています。

「木曽ひのき」の産地である当地域においても、林業後継者不足の問題は深刻です。そこで、協議会では、同じく木曽地域で活動する木曽林業士会（※）と連携し、長野県木曽青峰高等学校（以下、青峰高校）と長野県林業大学校（同、林大）に対し、各種実習の支援を行っています。

青峰高校では、主に森林環境科の2年生に対し、チェーンソーの

取り扱い方法や、受け口・追い口の作り方等の立木の伐採方法を林業士の皆さんが指導しています。

同科は、前身の木曽山林高校の林業科から続く林業の伝統校ですが、現在のカリキュラムは農業・食品産業等も併せたコース選択制となっており、また、林業専門の教員も不足している状況です。そこで、年によっては、ワイヤーの編み方や、高性能林業機械による伐採・搬出現場の見学なども行っています（今年度はチェーンソー実習を2月に実施する予定）。

林大では、同じく林業士の皆さんを講師として、チェーンソーを用いた伐倒・造材のほか、スイングヤーダやフォワードを用いた搬出実習の指導等も行っていきます。今年度は、2年生に対し9月に

※林業士：長野県が地域林業のリーダーとして養成・認定する資格



写真2 林業士の指導で受け口を作る

伐倒・造材・搬出の実習、11～12月に機械の操作の実習指導を行いました(写真1～4)。

さらに1～2月にかけて、林業コース選択の2年生7名に対し、造材・搬出の実習を4日間行う予定です。

青峰高校生・林大生に 実習後のアンケートを実施

以上の活動については、平成28年度の「多様な担い手育成事業」の取り組みを紹介した冊子でも報告していますので、今回は、毎年実習後に青峰高校生・林大生に行っているアンケートの集計結果について紹介したいと思います(20～21頁参照)。

アンケートの集計期間はデータが手元に残っていた平成27年度以降としました。前述の通り、年度によっては実施内容にプラスアルファがありますが、青峰高校ではチェーンソーの基本的な取り扱い、林大では伐倒実習は共通の内容となつています。そこで、これら共通内容の実習後に行ったアンケートを集計対象としました。

この間に実習を受けた青峰高校

の生徒は延べ260人でアンケート回答者数は200人、林大生の実習受講生は139人で回答者数は136人になります。

なお、全部で7つある設問のうち、林業関係の就職希望先に関する設問(Q4)は、平成28年度から選択肢が一部変更され、平成27年度以前とは内容が異なるため、28年度以降を集計対象としました。

アンケートの 集計結果と分析

図1は「入学前に林業について知っていたか?」という質問に対する回答ですが、「ほとんど知らなかった」という回答が青峰高校生では25%あるのに対し、林大生は4割近くを占めます。県内出身者が多くを占める青峰高校に対し、林大は県外出身者も多く、比較的林業とは縁遠い大都市の出身者も少なくないこと、さらに林大で深く林業を学ぶことで、これまで持っていた林業に関する知識が相対的に少なく感じるなど一因と考えられます。

図2は「研修前に、林業に関する仕事をしたいと思っていた

か？」という質問に対する回答で
す。林大では「思っていない」
という回答は5%程ですが、青峰
高校では同回答が半数以上を占め
ます。森林環境科といっても、農
業・食品関連との複合学科であり、
入学時に「林業」を意識している
生徒は必ずしも多くないことがう
かがえます。

しかし、青峰高校で「思ってい
なかった」という回答をした生徒
のうちの3割程は、実習後に「林
業に関する仕事」に対する意識が
「ある程度思った」と前向きに変
化しており、「林業」に関心を持
つひとつのきっかけとして、実習
を行うことには一定の効果があつ
たと考えられます（表参照）。

図3は林業関係の就職先に関す
る設問ですが、公務員がもともと
多く、僅差で林業会社、森林組合
が続く傾向は青峰高校・林大と
も共通しています。強いて言えば、
木材加工・流通会社が林大でやや
多く、造園・土木会社が青峰高校
でやや多いのが両校の特徴でしょ
うか。青峰高校には、森林環境科
のほかに木工関連として「インテ
リア科」があり、木工に興味があ

る受験生は森林環境科でなく、そ
ちらを受験できることなども影響
しているのかもしれない。

図4の「林業に関わる仕事に就
きたくない理由」については、図
2と同様の特徴が出ていると考え
られ、青峰高校では「興味がない」
が4割を占めます。こうした方々
に少しでも興味を持ってもらうこ
とも研修を実施する目的の1つで、
実際に林業に興味が出てきて、林
業関係の就職や林大を含む林業関
係の進学に繋がるケースもあるよ
うです。

図5は「今回の研修は役に立つ
たか?」、図6は「研修内容は理
解できたか?」という設問に対す
る回答です。いずれも、(大変・
ある程度)「役に立った」・「理解
できた」という感想が大半を占め、
おおむね実習の目的は達成してい
る、と言えそうです。

今後の課題と展望

青峰高校では、2年時からコー
ス別に別れて授業を受け、実習の
多くは3年に入ってから、という
カリキュラムで、協議会の実習前
はチェーンソーを触ったこともな



写真3 伐倒後の様子を観察し、検討する



写真4 緊張した面持ちで機械の説明を聞き、操作を行う林大生

い、という生徒も少なくないようです。このため、本稿の冒頭で述べたように、実習の内容もチェーンソーの基礎的な取り扱い方法が中心になっています。

また、今回の集計の対象には含まれていませんでしたが、チェーンソー実習とは別にワイヤー加工等の実習を行った際は、「理解できなかった」・「役に立たなかった」とい

う回答が増える傾向も認められ、短時間・多人数の実習の難しさ、相手の目的・理解度に応じた研修メニュー選択の課題も感じます。

他方、林大ではチェーンソーメーカーとタイアップしてトレーニングを積み、チェーンソーの取り扱いには相当の時間をかけて伐倒技術を磨いている学生もいます。こうした、競技会に出場して好成

績を収めるような学生であっても、実際の山林で伐倒作業を行う機会はないため、この実習は、実際に山で仕事をしているプロ（林業士）のアドバイスを得ながら伐倒体験ができる貴重な機会となっているようで、図5、6に高評価の回答が多い結果となったと考えられます。

新型コロナウイルスが国内で発

生・拡大してから約2年、いまだ終息が見通せない状況で、会員同士、あるいは他地域の林研との交流等も難しい状況が続いています。実習の実施にあたっては、学校側とのスケジュール調整等、今まで以上に慎重にならざるを得ませんが、感染対策をしっかりと、貴重な実習が継続できるように、取り組んでいきたいと思えます。

*まとめ

長野県木曾地域振興局 林務課

長野県木曾青峰高等学校・長野県林業大学校による 林業実習後アンケート集計結果

図1: Q1 あなたは高校または大学等入学前に、「林業」について知っていましたか。

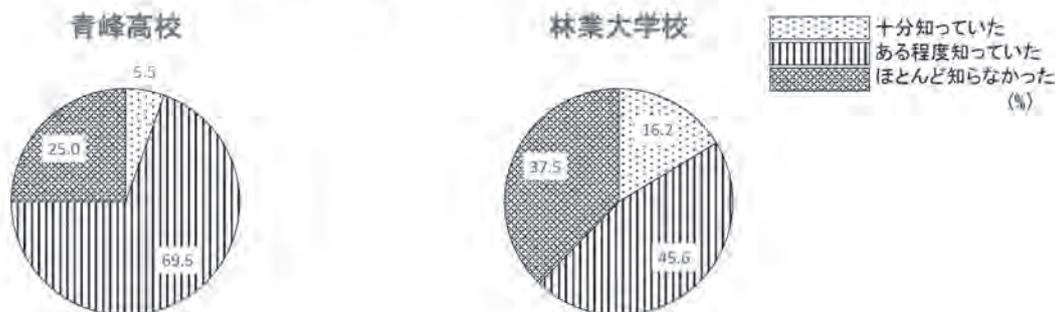


図2: Q2 あなたは、高校または大学等入学後、今回の研修を受講する前に「林業」に関わる仕事をしたいと
思っていましたか。

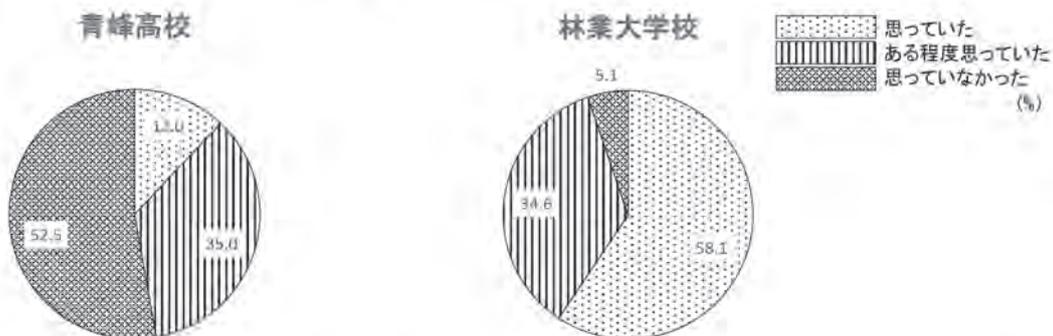


表: Q3 (Q2で③と答えの方) 今回のインターンシップ研修を受講したあとで、将来「林業」に関わる仕事をしたいと思いましたか。

選択肢	青峰高校			林業大学校		
	人	%*1	%*2	人	%*1	%*2
思った	0	0.0	0.0	2	28.6	1.5
ある程度思った	31	29.5	15.5	2	28.6	1.5
思わなかった	73	69.5	36.5	3	42.9	2.2
無回答	1	1.0	0.5	0	0.0	0.0

*1: Q2で③と回答した人数に対する割合 *2: 総回答人数に対する割合

図3: Q4 (Q2かQ3で①、②と答えの方) 将来どのような仕事に就きたいと思いますか。(複数回答あり)

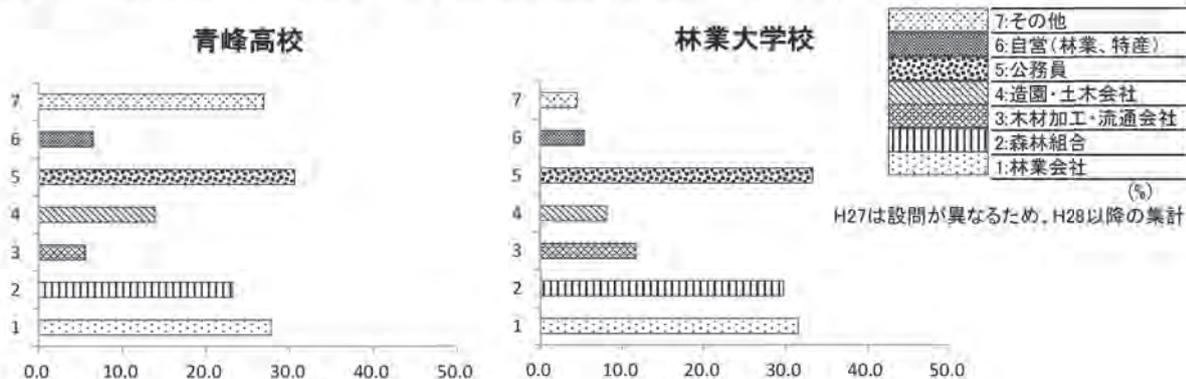


図4: Q5 (Q2かQ3で③と答えた方)「林業」に関わる仕事に就きたくない理由は何ですか。

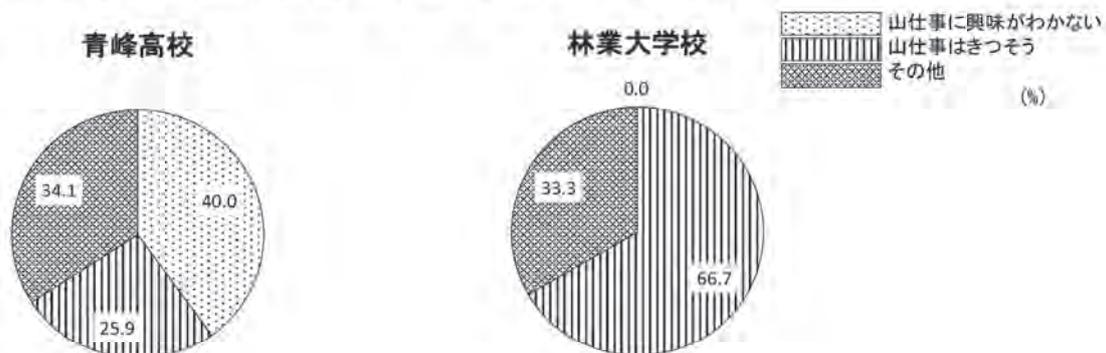


図5: Q6 今回の研修は将来のために役に立ちましたか。

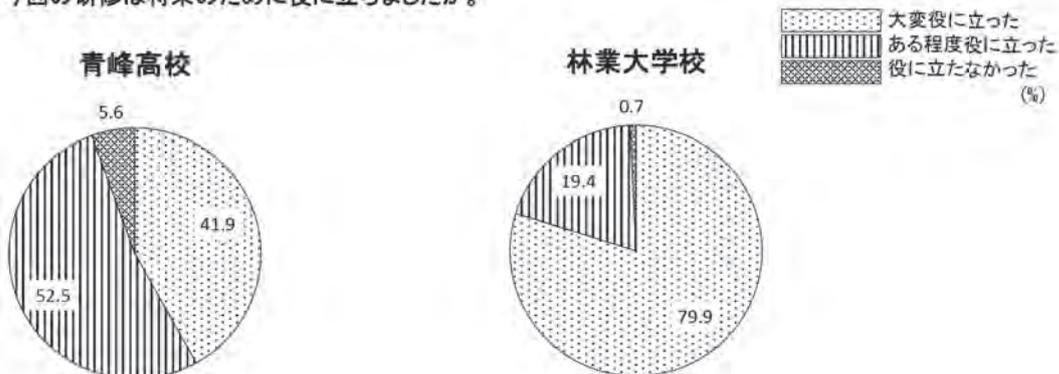
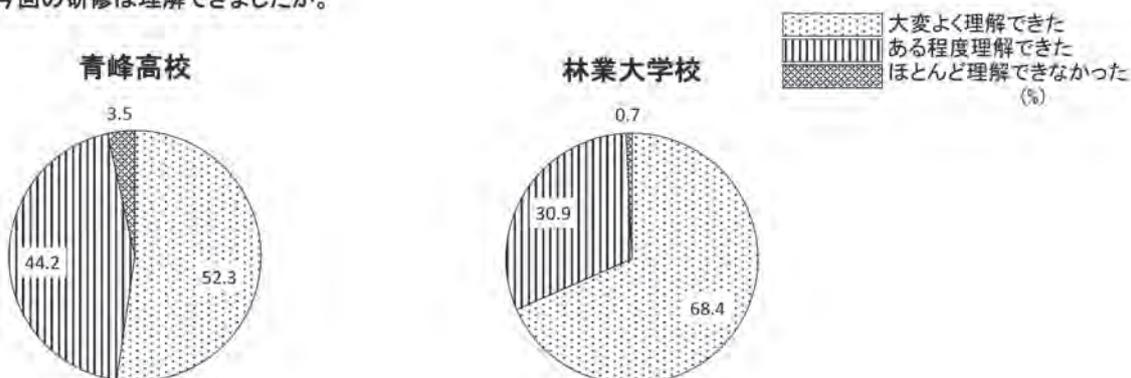


図6: Q7 今回の研修は理解できましたか。



事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

林業系への就職を目指す学生、 林業伝統地で製材所見学と伐倒体験 加子母優良材生産クラブ「岐阜県」



製材所に運び込まれた丸太を観察。
丁寧に枝打ちされた東濃ヒノキの木口には、枝の巻き込み痕を見ることができた

江戸時代から続く
林業伝統地

徳川尾張藩の直轄地だった木曾。

長野県側は「本木曾」、溪谷を挟んだ岐阜県側を「裏木曾」と呼んでいます。裏木曾三ヶ村の1

つ、加子母地区には、当時の山守

だった内木家があり、保管されている古文書解読により、江戸時代の林業技術や暮らしの解明に注目を集めています。この歴史深い地で生産される東濃ヒノキは、伊勢神宮の式年遷宮御用材や、法隆寺金堂、姫路城などの修復用材に使われています。

加子母優良材生産クラブ（以下、当クラブ）は林業研究会として昭和37年に発足。平成元年に名称を変更し、60年に及ぶ活動を続けられました。粥川永温会長のもと、26名の会員は、親から子、そして孫世代へと年齢構成の幅広さが特徴です。

コロナ禍でほとんどの活動が中止になる中、岐阜県立森林文化アカデミー（以下、森林文化アカデミー）の学生を対象にした林業体験研修だけは欠かさず続けてきま

した。

製材所見学
初めて見た無節柱

11月10日、森林文化アカデミー・森と木のエンジニア科1年生22名の参加による林業体験研修会が行われました。内容は午前中に製材所見学、昼食を挟んで午後は伐倒体験です。

「中に入ると機械の音が大きいので、最初に説明しますね」と話



開催の挨拶をする加子母優良材生産クラブ
会員と学生たち



工場内で製材機を見学



搬入された丸太で枝打ち材とそうでない材を見比べる



質問する学生に丁寧に答える梅田社長（右）。後に学生が旧知の息子だと判明し、話題に花が咲いた

してくれた梅田製材所の梅田誠造社長は46歳。森林文化アカデミー前身の岐阜県林業短期大学校出身です。

当社では柱材を中心に長尺物や横架材など住宅のどんな注文材にも応えていること、乾燥機の燃料に皮や木くずを利用し、1本の木を余すことなくすべて利用していること、木取りは、含水量が少ない赤身割合が多くなるよう通常より一段太い丸太を用いることなどの説明に続き、近年のウッドショックで材価は20年前の水準に戻っ

たが、建築様式の変化で無節柱の需要は低く、手間がかかった高級材の値段は回復していないという話を10分ほどかけて聞きました。

工場内では製材機を見学し、敷地に出てフォークリフトに乗せられた出荷前の無節柱を見ました。「家に和室がある人？」の質問に、手を挙げたのは1人だけ。無節柱を見たことがある学生はいませんでした。東濃ヒノキならではの美しい本目と色艶。乾燥機タイプや温度の違いでそれらが変化

し、梅田製材所が採用している熱湯式60℃と、外注に出した蒸気式120℃のものを並べて比較しました。学生たちは「高温のやつは色が黄色くて焦げ臭い」と鼻を近づけ、五感で感じ取っていました。

木材の人工乾燥については、学内に設置されている蒸気式乾燥機ですすでに学習しており、関心の高い学生が乾燥機タイプについて質問し、梅田社長は丁寧に答えていました。話の流れで、その学生が梅田社長の旧知の息子だと判明し、



初めて見た無節柱。匂いを嗅いだり色艶を見て乾燥方法の違いを比べてみる

業界と専門学校ならではの、人のつながりがありました。

目的意識を持った学生

森林文化アカデミーは、森林や木材にかかわる分野の人材を育成する2年制の専門学校です。学生のほとんどが林業やその関連業界に就職し、事業体からの求人学生数を上回る状況です。

学生に入学動機を尋ねると、「自然の中で働く仕事に就きたいと思った」「家が林業をしているから」「手に技術をつけたい」という声があり、大多数の人が当校を自分で見つけ志望しました。「習うことのすべてが刺激的」「授業で学ぶことが楽しくて仕方ない」と学生生活の充実ぶりを語ります。

「将来は林業や製材業と限定せず壁を越え、業界をつなげる人材になりたい」と、19歳とは思えない意見もありました。

目的意識がはっきりしているだけに、体験研修



仕切り板で感染対策した施設。温かい豚汁は毎年大好評

に臨む姿勢は真剣でした。

後世に引き継げる仕事を

見学の90分があつという間に過ぎ、最後の挨拶で梅田社長は、「自分はお客さんに幸せになつてもらえるように願つて、日々の仕事をしています」と話し出すと、学生たちはグツと引き付けられました。続けて周囲の深い山々を指しながら、「先人たちが植えてきたこの木々で仕事をさせてもらっています。林業は一代では答えは

出ないものだから、皆さんも後世へつなげる仕事ができるよう目指してください」。学生たちの胸に深く届く言葉でした。

昼食は近くの研修施設でとりました。消毒薬や仕切り板などの感染対策を万全にした上で、当クラブから恒例の豚汁が振る舞われ、半数ほどが県外出身で下宿

している学生たちには温かい食事が大好評でした。

この日はほかに2人の大学院生が参加していました。研究テーマは林業分野だけではなく地域づくりなどさまざまですが、当クラブでは、大学で建築を学ぶ学生たちによる「加子母木匠塾」をはじめ、11の大学や研究室と連携し、学生や院生を受け入れた研究協力をしてきました。それが縁で加子母地区に就職や移住する若者がいて、若者育成は、地域にとっても大切な活動と位置付けています。



プロのチェーンソーを借りて感激したものの、2人がかりでもエンジンがかからず、安江さんにかけてもらった

100年生のヒノキで伐倒体験

午後は伐倒体験。紅葉の美しい季節ですが、風が冷たくなってきました。担当するのは安江正秀さん45歳。梅田社長と1年違いで当校を卒業し事業体に就業した後、Uターンし27歳で林研グループに加入。活動歴は19年目です。梅田社長も安江さんも後輩に対して自然体で接しています。

「いろいろ話していると体温が下がってしまうから始めよう」と、



木の重心を見て伐倒方向を正確に見極める学生

研修会を滞りなく終え、学生を見送る会員たち。講師を務めた若手の梅田社長、安江さん、会計や雑事をこなし2人を背後で支援する庶務の古田徹さんら古参たち。それぞれが淡々と過不足なく役割を果たし、長き歳月を経てきた当

クラブの貫禄を感じさせました。 粥川会長は「若者育成は、(伝統ある林業地を)受け継ぐ者の使命と思つとるので、今後も仲間とともにできる限りやるつもりです」。

*まとめ 編集部

口頭の説明を打ち切って体験スタート。倒すのは梅田社長の所有林で樹齢100年のヒノキです。事前に足元の草がきれいに刈られています。

伐倒現場は初めてという学生が多い中、代表で伐る2人は林業系高校の出身で、数回の経験があります。

安江さんのチェーンソーを貸してもらい、手入れされたプロの道具に感激したものの、なかなかエンジンがかからず、安江さんをお願いの視線を送っていました。

しかしその後は、木の重心を見て伐倒方向を正確に決め、きれいな受け口を入れました。選手交代し、もう1人が追い口を入れます。ツルの幅が左右で違っていたので途中で指導を入れましたが、学生の集中力が削がれないよう、安江さんは危険な場合のみ声をかけるようにしていました。

比重の大きいヒノキは想像以上の地響きをたてて倒れ、ホッというため息とともに拍手が起きました。行動が敏速だったので時間に余裕ができ、もう1本同じように伐倒しました。

代表の学生は「小さな頃から祖父の山仕事を手伝っていました。経験を積んでもっとできるように

なりたい」「追い口を入れる時、緊張して木の動きが見えていなかったのが反省点です」と話していました。

切り株にみんなが集まってきました。安江さんは「上手く伐れているけど、ちよつと切り口が高いかな。値段の高い東濃ヒノキは昔なら土を掘ってでも、できるだけ長く採ったもんだ」「これじゃあ、名古屋城本丸御殿の材を出す粥川



切り株に集まり受け口と追い口について安江さんの解説を聞く

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

高校生の学びの意欲に応える 指導林家による林業体験学習 愛知県指導林家連絡協議会「愛知県」



森林を健全に保つため下層植生の大切さを学ぶ

県認定の指導林家による
後継者育成活動

愛知県では、率先して近代的林

業経営に取り組み、高度な知識や
技術、実践力および熱意を持って
地域の林業振興に貢献している林

愛知県内には森林・林業に関す
る科目・コースを持つ県立高校が
3校あります。主にその3校に在
席する生徒を対象とし、学校が休

業経営者を「愛知県指導林家」（以
下、指導林家）として、昭和56年
以降、知事が認定しています。そ
の指導林家で構成される愛知県指
導林家連絡協議会（杉浦則夫会長、
以下、協議会）は、同年に会員の
資質の向上と林業後継者の育成を
図ることを目的に設立され、令和
3年4月13日時点で35名の指導林
家が活躍しています。
協議会では、活動目的である林
業後継者育成のため、高校生を対
象とした林業体験学習を設立当初
から実施してきました。

きめ細やかな指導
1人1人がしっかりと体験

みの時（主に夏休み、冬休み）を
利用して、生徒の受け入れによる
林業体験学習を進めています。
実施形態は、日帰り学習や宿泊
学習などの滞在研修で、造林・保
育、除・間伐や伐木・造材、製材
きのこ栽培など、専門の指導林家
のもとで幅広く体験できる内容と
なっています。
体験学習への参加を希望する生
徒は、学校での専攻や卒業後の進
路検討など、それぞれの学習目的
にあった内容の指導林家のもとで
林業体験学習を行います。1回の
体験で受け入れる生徒数は2〜3
名以内と少人数のため、きめ細や
かな指導を行えますし、生徒1人
1人がしっかりと体験できるよう
なっています。

コロナ禍の中でも 林業体験できる場を

ここ2年は、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、日帰りのみで実施してきました。本年度は、感染症拡大により予定していた学習が中止になったものもありましたが、夏期には4名の指導林家のもとで2校の1〜3年生7名、冬期は3名の指導林家のもとで2校の1〜2年生7名の生徒を受け入れ林業体験学習を行いました。

伐倒、造材、林業機械操作を学ぶ

◆愛知県立田口高等学校 (林業科)

チェーンソーを用いた伐倒や造材作業、林業機械の操作などについては、9名の生徒たちが体験しました。学校の教育課程でも学校林でチェーンソー等を使用する機会がありますが、ここでの体験学習は、林業に興味のある生徒たちの、さらなる実体験の場としての役割を担っています。

ヘルメットや防護着の着用等安全面には十分配慮し、道具や機械



林内作業車の作業も興味津々で体験



土場での仕分け作業の必要性について学ぶ

の扱い方は、少人数の利点を活かして、ゆつくりと丁寧に指導していきます。

造材では、同じ樹種でも径の大きさによって用途が違い、売り先も変わってくるので、土場での仕分け作業の必要性について説明を受け、生徒は熱心に聞いていました。また林業機械では、林内作業車の操作を体験し、生徒たちは興味津々でチャレンジしていました。チェーンソーの扱い方についての指導を受けた生徒からは、「学校の実習ではなかなかうまくチェーンソーを扱えなく苦手意識があったが、今回の体験学習で指導を受けて、以前より自信が持てるようになった」との感想がありました。

そのほか、冬期には1名の生徒が炭焼きについて学び、指導林家による作業の様子を真剣なまなざしで見学していました。



炭焼きについて学ぶ



受け口の作り方について丁寧に確認



菌床しいたけの製造方法を学ぶ

原木・菌床しいたけ 特用林産物の現場を学ぶ

◆愛知県立猿投農林高等学校
(林産工芸科)

原木しいたけや菌床しいたけの生産については、5名の生徒たちが体験しました。そのうち、夏期に参加した2名の生徒は、菌床しいたけの製造過程についての見学をしました。学校では主に木材の

加工や林業技術を学んでいますが、「幅広く林業知識を習得するため、特用林産物の製造について現場で学びたい」と考え、きのこ生産を行っている指導林家のもとでの体験学習を希望しました。

菌床しいたけについて栽培から一連の製造方法などを学んだ生徒たちは、「肉厚で大きいしいたけが栽培できる技術はすごい！」と感激の声をあげていました。

この2名は3年生でしたが、進路は、森林組合や林学職の公務員など、林業に関係した就職を希望しています。

次世代の林業後継者へ 林家の心と技を伝えていく

この体験学習は、毎年継続して参加する生徒も多く、学校の先生からも好評です。参加した生徒たちからは「学校では学べないことが学べる」「楽しいので引き続き体験をしたい」という声を聞いています。

林業・木材関連分野への就業や



原木しいたけの生産方法を学ぶ
ほだ木のしいたけを真剣に観察する生徒たち

進学を考えている生徒がこの体験学習に多く参加していることは、運営する協議会側にとっても意義があり、やりがいにつながっています。

平成29年度から令和2年度の5年間に、延べ40名の指導林家のもとで延べ79名の生徒が林業体験を行いました。そのうち13名が、県内外の森林組合や林業事業体、製材工場への就職、地方公共団体

へ林学職として採用、林業大学校への進学をしています。

林業・木材関連分野への就業に興味をもつ生徒に、就業前に実際に現場を体験してもらうことは、森林・林業・木材関連分野の魅力を伝える場となり、また、進路を考えるきっかけとなつていて感じています。

また高校生だけではなく、小中学生を対象とした林業体験学習も実施しています。

引き続き、幅広く林業体験の場を設けていくことで、次世代の担い手の育成に取り組んでいきたいと考えています。

＊まとめ

愛知県指導連絡協議会 事務局
愛知県農林基盤局林務部林務課



小学校での菌床しいたけの栽培学習の様子

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

基礎の座学から技術実習、ICTまで 久万林業地のインターンシップ

かみうけな
上浮穴林業研究グループ連絡協議会「愛媛県」



3Dレーザースキャナーの説明を受ける2年生

(以下、協議会)を組織し、育林技術体系を作成するなどの活動を行っています。近年は担い手不足が深刻化しています。このため、協議会は、愛媛県内唯一の林業関係学科を有する愛媛県立上浮穴高等学校(以下、上浮穴高校)の生徒に、森林・林業の現場での活動を体験させる機会を設けることで興味関心を高めるとともに、森林・林業関連産業への就業意欲の向上を図るため、インターンシップ(林業就業体験)に年間を通じて取り組んでいます。

上浮穴高校1年生の 取り組み

◆森林・林業に関する講義と 現地見学

森林環境科の生徒は、森林環境

や農業に関する科目を多く学びます。2年次から3つ(育林・木材加工・園芸)の専攻班に分かれ、より専門的な知識や技術を身に付けることができます。当科生徒の出身地は、町内と町外の比率がほぼ均等ですが、そのうち1・2年生については町外出身者の方が多く、また、令和2年度より木造の学生寮「星天寮」を設置したこと等の影響もあり、県外出身者も増えています。

そこで、全国的にも有名な久万



原木市場の見学。ウッドショックの説明もあった(1年生)

愛媛県久万高原町は、県内のスギ・ヒノキ素材生産量の約40%(20万4千m³)を占める林業地で、この地域の森林所有者は林業に対する関心が高く、以前から上

浮穴林業研究グループ連絡協議会

高原町の林業について知ってもらい、2年次の専攻選択の参考になればと、7月30日(金)、1年生23名を対象に森林・林業関係の講義および町内の林業関係施設を見学しました。コロナ感染拡大防止の観点から、バス2台に分乗し、各現場を回りました。

午前中は、まずこれから見学する林業関係施設のイメージが生徒たちに湧きやすくなるように、久万広域森林組合の会議室で森林の公益的機能や林業・木材産業の基本的なサイクルにつ

いて、また施設の集約化が進まないことへのアプローチ策として行っている久万林業活性化プロジェクト(提案型集約化施設)の話題にも触れながら、久万高原町の林業の特徴について説明しました。次に、同組合久万市場に移動し、原木市場の木材の価格推移や原木の選別等について、場内を回り

ながら説明を受け、同父野川事業所(製材所)では、間柱・集成材

等の生産工程を見学。木取りの方法から、製材・乾燥などの一連の内容を学びました。また、ウッドショックの影響で、近年低迷していた木材価格が、数十年間働いてきたベテランでも予想できないくらいに上昇し、今後の推移について全く見通しがたないことなどについて、両施設で共に話があり、普段なかなか聞く機会のない生の声を聞くことができました。



木地師の工房見学(1年生)

午後からはまず、木地師である父と息子を中心に家族で木工作品の製作・販売を行う甲斐工房で、木の使い方や加工方法について実際の工房を見学しながら学びました。ロクロで木地を作り、漆を塗り重ねて仕上げます。この工房では基本的に広葉樹を使用するのですが、樹種ごとに異なる性質を見極め、乾燥や加工する必要があり、長い時を経て磨き上げた技術が重要であることを学びました。作品は、木の種類によって色や模様が違い、漆の塗る回数で雰囲気が変わる説明も受けました。

最後に、町内で先祖が代々育てた森林を自ら管理・経営する森林所有者の現場を見学。代々引き継がれてきた森林を後世に残したい、従来の常識にとらわれない新しい発想で森林を有効活用していきたいという熱い思いを聞くことができました。経営する林業関係会社の事務所では、ICTを活用して森林を一元管理している画像を見せていただきました。

生徒たちは、どの施設にお



先輩との意見交流会。興味津々で話を聴いた(2年生)

いても講師の説明をメモを取りながら真剣に聞き、さらには積極的に質問していました。全体を通じて、林業には多様なアプローチがあり、たくさんの方が関わっていることを学んだのではと思います。

上浮穴高校2年生の取り組み

2年生は夏と冬の2部に分けて、夏には林業関連に就職した先輩(同校卒業生含む)との交流会と高性能林業機械(以下、林業機械)の操作体験を実施し、この冬

には間伐実習やチェーンソー、林業機械のより本格的な操作実習等を行う予定です。

◆夏：先輩との交流会、林業機械の操作体験

7月26日（月）の午前中に先輩との交流会を上浮穴高校で行い、事前に先輩5名（林業会社の社長・社員、森林所有者、一人親方、森林組合の職員）の中で話を聞いてみたい業種について、アン

ケート調査で班分けをし、先輩の自己紹介後、質問等しながら交流を深めることで、興味のある内容を絞り、より深く質問し、内容を整理した上で、最後にみんなの前で発表しました。“林業のイメージの変化” “林業の良いところ・悪いところ” “これからの林業（林業の夢と展望）” など様々なテーマがありました。最初は緊張していた生徒も、中盤以降は笑いを交えながら交流でき、特に林業会社の社長（棚久保建設社長（協議会副会長））との交流では、社長の仕事内容について興味津々で話を聴く一幕もあり、貴重な機会を提供できたと思います。



林業機械操作体験（2年生）

午後は、2台のバスに分乗し、久保建設の現場に移動。林業機械の役割の説明や一連の操作実演後に、ハーベスタ・グラップル・フオーワダ

の操作体験です。23名を3班に分け、交替ですべての林業機械が体験できるようになりました。生徒から「研修前から林業関係に就職したいと思っていたが、今回の操作体験でよりその気持ちが強まった」との言葉が聞け、あらためて操作実習の意義を感じました。

◆冬：ICTによる次世代研修

例年、2月～3月にかけて、愛媛県林業研究センター（以下、研究センター）協力ののもと、次世代研修を実施しています。上浮穴高校森林環境科は、2年次から3つの専攻班に分かれることを冒頭で伝えましたが、樹木の育苗から間伐・枝打ち・伐倒・造材など山の仕事を身に着ける育林を専攻

している生徒にはもちろんのこと、普段は木材加工・園芸を専攻している生徒にも森林・林業の現場での活動を体験させる機会を設けることを目的としています。

今年度は、座学と実習を含め計4日間（2月初旬に2日間、3月初旬に2日間）で予定していますが、一部を除き昨年度と同じ内容を検討しているため、昨年度の実施内容の概要を伝えます。

1日～2日目午前中にかけて、上浮穴高校実習林でコンパス測量



標準地調査。ドローン・3DレーザースキャナーによるICT調査方法についても説明を受けた（2年生）



枝払いシミュレーター体験（2年生）

により標準地を決定して、標準地調査や間伐率設定を実施しました。23名を2班に分け、コンパス・巻き尺等、役割分担を行い、標準地を決定。2人1組になり、標準地内のスギ・ヒノキの胸高直径を測定します。また、(株)ジツタ協力のもと、ドローン・3DレーザーキャナーによるICT調査方法についても説明してもらいました。その後、標準地調査結果の集計により間伐率決定作業を学び、ジツタからは今回実施したICT調査方法での間伐率の決定についての講義があり、毎木調査結果と精度にさほど差がないことなども学びました。

2日午後～3日目にかけては、研究センターでチェーンソーの基本操作である受け口、追い口、玉切り、枝払いについて実習し、実際に立木を間伐しました。4日目は、林業機械（スイングヤーダ・グラップル）、林業機械（ハーベスタ）シミュレーター、チェーンソーVR体験を実施しました。以上が昨年度の内容です。昨年度は、ICT調査については説明する時間しか確保できなかったのですが、今年度は、標準地調査の後に同じ調査地でICT調査の実験を計画しており、ICTの実用性がより実感できるのではと思っています。さらに、森林

組合等の協力で、プラン書の作成やICT調査による地形データをもとに作業道の開設シミュレーションも体験してもらう予定です。

◆1・2年生／チェーンソー・刈払機講習会

例年通り、1年生

は、12月21日（火）に刈払機取扱業者安全衛生教育（1日）を実施し、2年生は、12月22日（水）～23日（木）、翌年の1月25日（火）に伐倒等の業務に係る特別教育（3日間）を実施予定です。これらの受講が完了していると、就職に有利になる職種もあるため、今後も、継続して実施していく考えです。

インターンシップの成果と今後の取り組み

協議会をはじめとして、地元行政機関、森林組合等の連携により林業関係のインターンシップ（林業就業体験）を20年以上継続実施



刈払機取扱業者安全衛生教育（1年生）

しています。成果として、毎年概ね2名の卒業生が林業関係の仕事に就職し、昨年度には3名が就職しました。その他の産業に就職した卒業生についても、このインターンシップを通じ学習することで、森林・林業の応援団になつてもらえたのではと思っています。今後も継続して取り組むことはもちろん、最新の動向を取り入れた研修についても積極的に実施していきたいと思っています。

*まとめ

上浮穴林業研究グループ
連絡協議会 事務局

主事 藤岡実里

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

チェーンソーメンテナンスと ジビエ料理体験交流で担い手育成

八代地域林業研究・普及連絡協議会やつしろ林業研究グループ部会「熊本県」



会員の目立て指導を真剣に聞く生徒たち

やつしろ林業研究グループと
五家荘しやくなげ会

八代市は熊本県南部に位置し、

八代海から九州山地の宮崎県境まで東西約50kmにわたり、全面積の約74%が森林です。人工林資源は

充実しつつありますが、林業従事者の高齢化と減少により整備が思うように進まない状況にあり、担い手育成は、八代地域林業の大きな課題となっています。

そのような中、八代地域林業研究・普及連絡協議会やつしろ林業研究グループ部会（以下、やつしろ林研）は、地元の熊本県立八代農業高等学校泉分校（以下、泉分校）の生徒を対象とした体験交流を続けてきました。

やつしろ林研は八代市の林業従事者ら26名で構成し、そのうち約半数は、「五家荘」として知られる九州山地の奥深い地域で林業と深く関わりながら森林の恵みを活かした営みをしています。最近では、増加傾向にある皆伐跡地植栽用の苗木不足を解消するため、郷

土のスギ品種「シャカイン」の苗木生産を始めるなど、地域林業の課題解決にも積極的に取り組んでいます。

また、女性会員6名は、五家荘しやくなげ会（以下、しやくなげ会）を結成して独自の活動を続けてきました。五家荘の農林水産物やシカ肉の利用加工など、地域の宝を活かす取り組みで大きな実績を重ねています。

泉分校生徒との体験交流

泉分校の「グリーンライフ科」には、令和3年度現在36名の生徒が就学。2年生から林業・林産業・水産業を主体とする「グリーンコース」と、食品調理・福祉介護を主体とする「ライフコース」に分かれて専門教育を受けます。



まずはチェーンソーメンテナンスについて説明を受ける

生徒に林業の実践的な技術や働き方を伝え、林業と地域社会を守る仲間をつくるのが当初からの目的ですが、高齢化が進む会員にとって自ら企画し、創意工夫をしながら実践し、若い世代と交流することは新しい刺激であり、大きな楽しみともなっています。

また、公立高校では実施が難しい体験の機会を提供することができると、泉分校の教諭からも継続して実施することが期待されてきました。そのため、感染症拡大の影響が懸念されましたが、関係者間で検討と準備を重ね、12月4日（土）、八代市泉コミュニティセンターで実施しました。



チェーンソーの分解・清掃について指導する八代森林組作業員

奥深いチェーンソーメンテナンスと目立って体験交流

チェーンソーは林業に欠かせない道具であり、そのメンテナンスは動作の安全と作業の効率性を左右するため、林業の未来を担う生徒にはぜひ習得させる必要があります。そこで、今回は「チェーンソーメンテナンスと目立って」をテーマに、道具としてのチェーンソーの面白さ、奥深さを知ってもらいたいと考えました。

当日はグリーンコースの生徒12



ソーチェーンの目立てを指導する会員



チェーンソーの分解・清掃を体験する生徒たち

名が参加し、会員4名と八代森林組作業員2名が講師として指導しました。大まかな流れは次の通りです。

- ①メンテナンスや目立てをしていない状態のチェーンソーで丸太を玉切りさせて、その感触やおがくずの様子を確かめさせる
- ②チェーンソーの各部分の働きと分解・清掃の方法を教え、やらせてみる
- ③目立ての正しい方法を教え、やらせてみる
- ④生徒自らがメンテナンスと目立てをしたチェーンソーで再度玉切りをさせて、メンテナンスや目立ての効果を実感させる



真剣に目立てに取り組む生徒



玉切りしてチェーンソーの具合を確認める



目立て前後のおがくずの違いを確認める

げ会と泉分校の双方からメニューを提案し、作り方を教えあいながら共同作業をするという形式で実施しました。

気軽に調理でき、手に入るシカ肉の多寡にかかわらず作ることができるメニューとなりました。地元で採れる野菜をふんだんに活かせるのもコロッケの良いところです。

一方、泉分校からの提案は「ローストディア」と「鹿味噌」。泉分校では野生鳥獣問題を考えるため、狩猟免許を取得した教諭の指導のもとでシカのわな捕獲を試み、捕獲個体の食肉利用についても学習してきました。3年生はその成果を広く発表するため、12月25日

講師1名を生徒3名が囲む形で進められ、講師が1つ1つの部品の働きや点検すべきポイントを説明すると、生徒たちは食い入るようにそれを見つめていました。

ソーチェーンの目立てでは、誤ったやり方も解説しながらガイドなどの道具を使う意味を理解させ、正しい目立て動作ができるまで丁寧に教えていきました。また、講師自身が使用するチェーンソーも持ち出して、伐倒木の樹種や直径、作業状況に応じてチェーンソーやチェーンの種類を換えるなど、より実践的な使い方を熱く語る姿も

見られました。

生徒たちもチェーンソーの動作を確かめながら、正しい方法を繰り返し確認したり、質問したり、まさに「職人」の目つきになって真剣に取り組んでいました。

**ジビエ料理の体験交流
「ともに教えあい、
学びあう」**

しゃくなげ会では、これまでの活動で培ってきた経験を若い世代に引き継ぎ、五家荘の自然の恵みを知ってもらおうと「ライフコース」の生徒を対象にジビエ料理体

験を毎年実施しています。昨年は趣向を変えてイタリアンシェフを講師として招き、生徒とともに学ぶ形式で開催したところ、「ともに学ぶ」とにより生徒との距離が近くなるのを感じ、その経験から、今回は「ともに教えあい、学びあう」ことをテーマに、しゃくな



前日に五家荘で捕獲されたシカの肉を使う



シカ肉を調理する生徒たち

に熊本市で開催されるイベント「白川クリスマス ジビエ甲子園」への出店を目指してシカ肉料理の研究に取り組んでおり、その研究成果の一部を今回披露することとしました。

当日は生徒2名としゃくなげ会員4名、教諭や農家団体、県職員らの応援3名が加わり、2時間半の限られた時間の中で約40食分の料理を作り上げました。和氣あいあいとしながらも手際良く調理し、シカ肉の臭みのとり方や加熱

加減を語りあっていました。当日は生徒1人が欠席となりましたが、協力し合って完成させることができました。

出来上がった料理は、昼食時に合流したチェンソーメンテナンステ験の参加者とともに試食。生徒からメニューの紹介と調理時の工夫や苦労した点なども簡潔に説明があり、料理を味わうポイントが参加者に上手く伝わりました。感染症対策のため談笑しながら会食というわけにはいきませんでした。

だが、みんな笑顔で料理を平らげました。野生獣肉の先入観として言われるような臭みや硬さを感じさせない美味しい料理でした。

体験交流の振り返り

試食後は、参加者全員にアンケートを実施しました。学校の実習では得られない経験がで



出来上がったジビエ料理

き新たな知識が得られたことや、体験の始めには上手くできなかつたことが指導を受けるうちに上達して嬉しかったことなどを率直に喜ぶ生徒の意見が多く見られました。

チェンソーメンテナンスを体験した生徒たちは、目立ての難しさや大切さを学び、八代森林組合作業員から指導を受けたことよって森林組合に親近感を抱いたことなどが触れられていました。

ジビエ料理を体験した生徒たちは、たくさんの方の協力を得て料理を完成させたことへの感謝や、美味しいと言ってもらえたことへ

の喜び、作業ペースの配分に課題を発見し改善意欲が出たことなどが触れられていました。

指導者からは、生徒たちの飲み込みが早く教えるのが楽しかったこと、安全や衛生の管理に気を配ったこと、世代差の大きい生徒たちに指導が伝わるよう苦労したこと、ともに作業をすることで互いの勉強になったとの感想が寄せられました。

体験交流は、生徒からみれば年に1回、在学中にわずか2回だけですが、貴重な体験の場として、毎年数名の林業大学校への進学や林業関係の就業にも結びついています。

次世代を担う生徒たちに林業や地域社会への関心を高めてもらうため、また、若い世代との交流から得られる楽しさを活動の原動力とするため、今後も内容や方法を工夫しながら続けていきます。

*まとめ

八代地域林業研究・

普及連絡協議会

やつしる林業研究グループ部会事務局

事

林業グループの林業振興活動支援

例

楽しく、無理なく、継続 薪・炭・竹で里山林を循環 なかい里山研究会「神奈川県」



自然の中で楽しく笑顔で作業する会員たち

里山林の
整備・保全・利活用

神奈川県足柄上郡中井町は起伏

に富む丘陵地が広がり、里山の景観が広がる地域です。高台に行く
と、西は富士山、北は表丹沢を代

表する大山、東は横浜のビル群を遠望することができ、コナラ、クヌギを主とする広葉樹林と農地との緑のコントラストが織りなす美しい町です。

なかい里山研究会（西尾権太郎会長、以下、当会）は、里山の保全、森林資源の利活用を目的とした林業研究グループで、平成17年に発足しました。元々は、地元の方が森林資源の利活用のため、炭窯を製作し、炭焼き教室を始めたのがきっかけでした。現在は女性を含め会員が26名に増え、近隣の市町から参加する方もいます。会員は、定年退職世代が中心で、入会後初めて山林作業に携わる方が多くなっています。自然の中で楽しく体を動かすことがモットーで、第2金曜日と第4土曜日を定例活動日とし、皆さん和気あいあいと笑顔で作業に汗を流しています。

里山林は居住地近くに広がり、薪炭用材の伐採等を通じて地域住民に継続的に利用・整備されることにより維持・管理されてきました。近年は、地域住民との関係が希薄になり荒廃が進んでいます。

当会は、こうした地域の、主にコナラ、クヌギ林を間伐し、間伐材を薪や炭、しいたけ原木等に活用しています。また、竹林整備も実施し、伐竹材の利活用も行っています。

口コミで広がる会の活動

整備箇所は、毎年山林所有者と相談の上、その年の伐採を行っています。単発で間伐の依頼を受けて伐採することもあります。

基本的にボランティアで作業を進めているので、特に積極的な広報は行っていませんが、口コミで会の存在が広がり、自然と依頼が

舞い込んでくるそうです。こうして町内の山林を毎年約1ha間伐しており、約80mの間伐材を搬出しています。

中井町では令和元年頃から、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、コナラ等のブナ科の樹木が集団的に枯れる、いわゆるナラ枯れの被害が発生し始め、町道や農道、農地脇にも枯れ木が目立つようになりました。この枯死木の伐採依頼も多くなっています。

求められる地域資源 「薪」

コナラ、クヌギ等里山林の整備で発生した間伐材は、薪や炭、しいたけ原木として販売しています。

薪は、広葉樹から針葉樹からも生産されますが、広葉樹は材が硬く、火持ちが良いのが特徴で、針葉樹は火付きは良いですが広葉樹より早く燃え尽きます。

神奈川県でも郊外の住宅に薪ストーブが普及しており、個人で薪を買い求める人が増えています。当会が生産



木酢液を蒸留中

した薪は、こういった個人の方への販売のほかに、ピザ屋さんやキャンプ用品店などへ販売しています。作り手の顔が見えることにより、ユーザーも安心して使用でき、継続的な購入につながっています。

自宅用の薪を求めて当会にたどり着き、会員となる方もいます。

求められる地域資源 「炭」

コロナ禍以前は、炭を年に4〜5回焼いていましたが、現在

は年に2回になりました。以前は、近隣の町で開催される、「千人鍋を囲むモミジ祭り」(本当に1000人近くが参加します)の



薪や炭はお店で買うこともできる

燃料に使われるので、毎年大量の取り引きがあったのですが、近年は炭の引き合いが少なくなりました。最近はアウトドアブームもあって個人のバーベキュー用などに使われることが多いようです。とはいえ近隣では、地元材で炭を生産し販売する人がほとんどいません。三日三晩火の番をして丁寧に行われる地元産の木炭は今時珍しい希少品です。希少品の炭を使って焼く肉や魚は、外はパリッと中はふんわり焼き上がり、とてもおいしいので、コロナ禍で外出もままならない中、人々の癒しとなっていることでしょう。

また、木酢液も採取、販売しており、原液と蒸留液の2種類、用途に合わせて使い分けることができます。木酢液の蒸留は手間がかかりますが、地域資源を無駄なく、全て活用しています。

求められる地域資源 「竹」

竹林整備で伐った竹は、お



薪や炭は現地販売も行っている

正月のミニ門松や町主催の竹灯籠祭りの材料に使われます。ミニ門松は、500mlペットボトルくらいの大きさで、玄関に飾るのにぴったりのサイズです。材料の竹、松の葉、稲わらは全て地元で調達しています。また、後に述べる体験教室でも製作することができます。

竹灯籠祭りは、ゲンジボタルが飛び交う5月下旬に町内の湿生公園

園で開かれますが、近隣の市町から大勢の人が訪れます。竹灯籠の灯る木道を歩きながらホタルが観察でき、他にはない幻想的な光景を見ることが出来ます。祭りの後は、竹をチップ化し畑の肥料として使用しますので、全く無駄がありません。

体験教室も実施

毎年、炭焼き、しいたけの植菌

体験、ミニ門松作りの体験教室を実施しています。毎回好評で、募集するとすぐに定員に達します。しいたけの植菌体験は地元のケーブルテレビ局が取材に来るなど、こちらも口コミで存在が広がっています。地元材のほだ木から発生するしいたけがおいしいので、リピーターの方がいるほどです。ミニ門松作りはお正月前に行います。半日で2つ製作することが

できます。楽しく作れて、家に持ち帰りすぐに飾れるので、体験者の方は大変充実した時間を過ごされています。この体験教室がきっかけで、当会に入会される方もいます。

体験教室の際は、間伐材の活用が、里山林の保全につながることもお話しし、里山林と人の生活のつながりを気づいてもらうきっかけにもなっています。

合言葉は安全第一 定例日の活動風景

とある定例日の活動風景です。会員の皆さんが拠点となる炭窯設置場所に集合し、ミーティングを行います。その日1日何をやるかは作業状況により当日決めます。今日は、地主さんから依頼を受けたコナラ林の伐採と新割りです。2班に分かれますが、班分けも当日どちらの作業をやりたいかで自分で選択することができます。

伐採班は車で現場へ移動。今日は8人1班で作業を行います。チェーンソーや刈払機の扱いに関しては、講習を受けて練習してから実践します。安全第一を合言葉に



竹林整備も行い、竹を有効活用している



【里山体験教室】
炭窯に原木を入れているところ



【里山体験教室】ミニ門松作り



【里山体験教室】植菌の前に里山林の解説

さて、その時薪割班は、拠点にて2台の新割機を稼働させて薪作りに汗を流しています。薪割機の機械操作と材料となる木を固定する人、2人1組で作業します。薪

割機のエンジンの小刻みで少し大きな心地良い音を耳に作業に没頭するひとときです。女性でも片手でつかめる太さまで丁寧に割ります。割った薪は、別の会員の方が屋根付きの棚にどんどん積み上げていきます。約1年乾燥させてから販売しますので、所狭しと薪の棚が出来上がっていきます。時にはイノシシ肉の差し入れもあります。そう

社会情勢の変化により、薪や炭の生産バランスは変わりますが、地域資源へのニーズは尽きることなくあります。自主性を大事にして、それぞれの個性を生かし山の作業を楽しんでいる会員の皆さんの笑顔がとても印象的でした。地道な活動が地域に根付き、口

割機のエンジンの小刻みで少し大きな心地良い音を耳に作業に没頭するひとときです。女性でも片手でつかめる太さまで丁寧に割ります。割った薪は、別の会員の方が屋根付きの棚にどんどん積み上げていきます。約1年乾燥させてから販売しますので、所狭しと薪の棚が出来上がっていきます。時にはイノシシ肉の差し入れもあります。そう

これから先も山の作業を楽しみながら

いったときは、自然の中でイノシシ鍋を囲んで会員同士の親睦を深めます。のんびりと楽しく過ごす至福のひとつです。

コミにより活動場所や会員が増えているなか、里山研究会は、地域の山林にとって貴重な存在です。今後も引き続き楽しみながら継続的な里山林の整備・保全活動につなげていただきたいと思います。

*まとめ

神奈川県西地域
県政総合センター森林保全課
林業普及指導員 豊永洋子



薪作りに没頭中

事

林業グループの林業振興活動支援

例

安全意識と技術をより高めて チェーンソー整備・作業講習会 大井川地区林業研究協議会「静岡県」



防護衣を着けて、いざ実習！
講習の成果もあり手応えは充分

江戸時代から
連面と受け継がれる
大井川の木材産業

南アルプス南部に源を発し、静岡県の中央部を南下しつつ駿河湾に注ぐ大井川。その流域は志太

榛原はいぼらと称されますが、中でも林業・製材業が盛んな島田市・藤枝市・川根本町の2市1町が大井川地区林業研究協議会（清水たくみ匠会たくみ会長、以下、当会）の活動管内となっています。

北部は起伏に富んだ急傾斜地の多い地域であり、日照時間の長さや昼夜の寒暖差、朝霧の発生が茶の生育に適し、古くから茶業と木材・きのこ等の林産という半農半林で生計が営まれてきました。大井川では川幅が狭く筏が組めなかったため、昭和40年頃まではバラの木材をそのまま流し、水



地域の文化・産業の基盤となる大井川

流を利用して運ぶ「川狩り」という独特な技術で林業が展開していました。当会が事務局を置く島田市では、かつて上流部で伐り出さ

れた木材が集積され、「木都島田」と称されて大変栄え、長い歴史を持つ製材所が現在も多く操業を続けています。

かつて管内には6つの林業研究会が存在し、各自活動を行っていましたが、市町の合併に加えて、林業情勢の変化、会員の研究会に対するニーズの多様化に対応すべく、平成12年に各林業研究会を統合するかたちで当会は発足しました。現在でも林業家の多い川根本町には単位林研として川根本町林業研究会を置き、総会員数40名(令和3年12月現在)で活動を行っています。会員の構成は、森林所有者、自伐林家、製材業者、林業事業体従業員と多様であり、情報交換や技術の研鑽、後継者養成に取り組んでいます。

地域の森林活動への技術支援

当会では、森林で活動を行いたいという地域の要請を受けて、学校・団体に対して体験学習や技術指導を行っています。不定期開催ではありますが、毎度好評をいただいております、このたびの島田市大

津財産区チェンソー講習会は5年ぶりの開催となりました。

大津財産区は、島田市と合併した旧大津村が所有していた山林等の財産管理のため設けられた地方公共団体であり、現在も区有林の造成および管理、ならびに財産区の区域内の住民の福祉に資する活動を行っています。大津財産区は森林組合おおいがわの組合員でもあり、安全技術指導について森林組合に相談があったことをきっかけに、森林組合が当会の事務局を

務めていることから講習会の開催に至りました。講習は島田市民協働課および森林組合おおいがわの協力のもと、大津財産区議員10名が参加して行われました。

今回の講習は、大津財産区の行事として、近々、小学校で原木植菌体験を行うためにコナラの伐採を行いたいという具体的な目的があり、皆さんはとても熱心に講習に臨んでいました。チェンソーは持っているものの普段あまり使わないという方から、地域活動でよく使っていると

師を務めた当会会員も自身がしいたけ生産を行っていることから、財産区の現状やニーズに沿った指導を行うことができました。木材生産のため植林されたスギ・ヒノキ林と、多種多様な樹種が混在する雑木林とは、伐採を行う際に注意すべきことに違いがあります。かかり木やガイドバーが挟まるなどのトラブルには、皆さん経験があるようで、参加者からの質問が飛び交い、ケースごとの対処法を丁寧に説明しました。

また、幹が通直で枝分かれしにくいスギやヒノキと比べ、しいたけ原木に使うコナラ等は偏心しやすく、加えて芯が硬いことから、追いつくを切る途中で荷重により幹が裂けて事故につながる可能性があります。この場合に、追いつく切りが有効であることや、樹種による物性(粘りの強さ)の違いに合わせて、残すツルの幅を変えることなど、教科書では教えきれない、実践に基づく細やかな講習が行われました。



追いつく切りの説明をする会員
高度な技術です

多様な樹種に
対応できる
安全な技術を
学ぶ

今回の講習で講

講習の後は屋外に移動して、実際にチェンソーを手に、作業姿勢と整備の実習を行いました。参

加者の所有するチェーンソーのメーカーや機種は様々で、ブレイキヤチェーンキャッチャーなどの安全装置の確認を行ったところ、中には作動しないものも見受けられました。危険を避ける行動を身につけることはもちろんですが、いざというときに身を守る最後の砦である安全装置について、常時から機能を把握し、点検しておくことが大切です。

山林に移動し実際に間伐を行う予定でしたが、悪天候のため急遽変更となり、財産区で試し切り用の丸太を用意して進めました。

参加者は、初めて履くチャップスで格好良くキメたものの、整備を終えたチェーンソーで丸太を切りながら「切粉が細かいってことは、目立てがまだ甘いなあ」とい



ソーチェーンの目立ての方法を真剣に聞く参加者たち
やすりの当て方にコツが要る！



チェーンソーを分解して掃除していく
「俺、初めてここ開けた」

う声も。講習は終始和気あいあいといった雰囲気が進み、この先も財産区の活動が事故なく楽しいものであることを願うばかりです。

労使関係にない団体活動は労働安全衛生規則の適用外であり、伐木等の業務に関する特別教育やチェーンソーズボン等の着用は義務付けられていません。しかし、今回の講習を通じて参加者の安全意

識がより高まり、今後は特別教育の受講や防護衣の導入を前向きに検討するとのことでした。

地域林業の活性化をめざして

少子高齢化や、自然災害・鳥獣害などによる林家の経営難といった林業を取り巻く情勢は厳しく、当会の会員数も減少傾向にあります。

す。今後も会の活動を継続していくため、ひいては地域林業をより活性化するためには、新たな担い手の確保は急務です。

近年では、新型コロナウイルス感染症の拡大という、世界的な未曾有の災厄に見舞われましたが、林業界にとってはある意味で大きな追い風となったように感じます。例としては、密閉・密集を避け

るレジャーとして、ハイキングやキャンプなど山林での活動に注目が集まりました。また、東京一極集中の限界に皆が気づき始め、都市から地方への移住という選択も増えており、山林で働くことを希望する声をよく耳にするようになりました。林業界としても就業力イダンスや研修制度など就業希望者向けの支援や労働環境の改善に取り組んでおり、未経験者でも就業しやすい傾向にあります。

ありがたいことに継続して新規就業者はいるのですが、ここ数年は情勢的に一堂に集うということが難しく、会の活動や林業者間の交流を行い難い状況が続いてきました。期待をもって林業の世界に飛び込んでくれた人たちを孤立させないよう、また、普段の仕事仲間以外にも働き方や技術面で目標と成り得る人と出会えるよう、経営体の枠を超えて林業者間の結びつきを強めることは当会の存在意義であると考えています。

清水会長が11年前当会に加入した当時は、会員が今の倍ほど在籍しており、定期的な活動や意見交換会、親睦会が設けられ、林業に

ついて語り合ったといえます。また、その父の代には、お揃いのネクタイで研修に行ったり、活動の一環で婚活企画を行ったりと、今では考えられないほど活発で生き生きとした活動がされていたそうです。

時代とともに会の有り様や活動には変化を求められますが、清水会長は、かつての想いや熱量はそのままに受け継ぎながら、当会が地域と林業の出会いの場、林業者同士の出会いの場となつて、地域林業の活性化の一翼を担っていきたいと語ります。

地域の未来を見据えて小学生に向けた活動も

地域と林業の出会いという点でいえば、当会は長年、小学生を対象とした「森の課外授業」に取り組んでいます。当会の活動管内である2市1町合わせた森林率は76%（令和2年度）と全国的にみても高く、上流に向かうにつれ森が深くなるという自然環境に恵まれた地域にあります。

しかしながら、森林の仕事となると、イメージできないという住

民は多く、対して林業者側も謙虚な気質なのか、林業の魅力を十分発信できていないという反省があります。時に自然の美しさに圧倒され、時に猛威を振るう自然に為すべくなく畏敬の念を抱き、次世代のために木を植え大切に受け継いでいく。林業というものは本来とてもドラマチックなものです。

次世代を担う

子どもたちが、自分たちが暮らす地域で培われてきた文化・産業・林業について学び、自分自身や地域の未来について考え、可能性を見出す機会が持てるような地域になつてもらえればと考えています。学習指導要領との兼ね合いや、学校側の受け入れ態勢など、クリアしていかねばならない課題



小学生たちと間伐体験

はいくつもありますが、県とも連携し管内の小学校に活動を広げる取り組みが始まりつつあります。

＊まとめ
大井川地区林業研究協議会
事務局

第2部

山づくり 人づくり
ものづくり
チャレンジ!

私たちのニューフェイス

実践するリーダー

私たちのチャレンジ!

事

私たちのニューフェイス

例



ゆくゆくは所有林の管理を。 林研活動で交流と見識を深めたい。

エンジョイ・フォレスト女性林研「東京都」／小澤未夏子さん

都市住民への普及啓発を
基本にした女性グループ

エンジョイ・フォレスト女性林
研（福田珠子会長／以下、当会）

は、東京都多摩地域を拠点に女性
19人で活動している女性林業研究
グループです。

「見直そう森の恵み 残そう東
京の山 伝えよう木を生かす文

化」をキャッチフレーズに、都市
部に住む方への普及啓発、子ども
たちに森とふれあう楽しさを伝え
る森林環境教育を基本として、草

木染め、苔玉作り、クリスマスリー
ス作りなどのイベントの開催や、
保育園児への自然教育など、女性
ならではの視点を活かした活動を

しています。

父と山守さんの会話で
山に興味をもった

経験豊かな会員が多くいる当会
に、令和元年6月、待望の若手会
員として小澤未夏子さんが新たに
入会しました。

小澤さんは、青梅市で300年
以上前から酒造業を営む家庭に生
まれ、酒蔵の経営を行う父親の姿
を見て育ったそうです。子どもの
頃から自然が好きで、大学では造
園学を専攻し、卒業後に就職した
造園会社では、配属先の国営公園
でイベントの企画運営などを担当
しました。小澤家では約200ha
の森林を所有しており、森林の巡
回や管理を「山守さん」に任せて
いるそうです。小澤さんによると、



森林散策。イベント参加者に森林の働きや林業の現状を説明



新たに仲間に加わった
小澤未夏子さん



苔玉作り。材料の苔は森林から採取したもの

林研会長からの 勧誘で入会を決心

「以前から父と親交の深い福田会長から誘っていたいたことがきっかけで、入会を決めました。

「父と山守さんとの会話を聞くうちに森林管理に興味を持ち、携わるようになりまし。現在は実家の酒造会社が経営する飲食店で働



草木染め体験講座。樹木の葉や果実を使ってスカーフを染める

はじめは、林業についての経験が少ない自分がうまくなじめるか不安でしたが、入会してみると会員の皆さんが気さくに接してくださって安心しました。活動に参加してみ、アットホームで温かい雰囲気や、女性ならではのきめ細やかさを感じました」

小澤さんはこれまでに草木染めと苔玉作りのイベントに参加しました。「イベントではメインの講座以外に森林散策の時間があり、楽しみながら学べると感じました。草木染めでは、今年はブドウを使ってスカーフを染めました。同じ染料でも年や季節によって違った色合いになるところが、草木染めの魅力だと感じます」

◆ 小澤さんに今後の抱負を聞くと、「森林や林業についてさらに学び、所有森林の管理について自分なりの考えを持てるようになることが今の目標です。林研活動を通して様々な方と交流し、見識を深めていきたいです」と語ってくれました。いつも積



クリスマスリース作り。木の実や樹木の葉を使って自由に飾り付け



エンジョイ・フォレスト女性林研のメンバー（左端が小澤さん）

極的に活動に取り組み、明るい笑顔が印象的な小澤さんの今後のご活躍を応援しております。

＊まとめ
東京都森林事務所
普及担当 立崎祥子
(所属は執筆時)

事

実践するリーダー

例



SDGsを学ぶ 地域と森をつなぐ活動

仙南フォレストクラブ「宮城県」／海藤節生さん

生態系の保全のために

仙南フォレストクラブ（以下「本会」）は、宮城県内の林業関係者が協働して地域活動を行う人材ネットワークです。宮城県南部の蔵王連峰と阿武隈山地に囲まれた地域で活動してきましたが、東日本大震災後は地区を限定せず活動しています。

本会の事務局を担う海藤節生さんは、初代ハウンドドッグベシスト、NPO法人「水守の郷七ヶ宿」理事長、環鳥海総合人間科学研究所客員研究員、ラジオパーソナリティーなど多くの肩書きを持ち、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した活動を幅広く展開しています。持続可能な開発目標のベースとなる生態系の保全のため

めに、林業の理解者や担い手育成、森林体験活動を積極的に行っていくことが大変重要と考え、学校教育の中で森林について学ぶ機会を創出しています。

高校生の 林業インターンシップ

本会は、平成21年度より宮城県で唯一林業を学べる宮城県柴田農林高等学校の森林環境科2年生に対して、林業インターンシップ事業を行っています。令和5年度に同じ町内の商業高校との統合が決まり、「学科再編により森林環境科がなくなってしまうのでは？」という危機感を抱いた本会が、「林業の担い手を世に輩出する」という目標を立



インターンシップ：斧による伐倒体験

て、即戦力となる人材を育成すべく、充実した実習を行えるようにしました。幅広い体験と実習ができるように管内の林業関係者に協力を求め、伐倒などの林業技術のほか、原木市場や製材所などを見学する年間10



子どもたちの前で「森へおいでよ！」と歌う海藤節生さん。右上の写真はラジオパーソナリティーをお務めの際の様子



※海藤さんが歌う「We love Frest 2020 森へおいでよ！」の動画がYouTubeで公開されています。上の二次元バーコードからご覧ください



「森の教室」で子どもたちに話をする海藤さん



インターンシップ：市場見学



2人挽きの鋸は息を合わせることが大切

回のインターンシップを行っていただきます。林業技術の体験では、生徒たちは、まず安全講習を受け、機械の構造やメンテナンスについて詳しく学んだ後で、現場で刈払いや伐倒作業を行います。山を持ち、木材の生産・加工、住宅の施工・販売まで手がける会員企業の見学では、森から家まで、木がどのように加工され、利用されるかについて学びます。市場見学では、演習林から伐出された材が木材市場で競りにかけられ値が付くと、「もつと高く売れないのか」と生徒は悔しがり、そうして市場の役割や流

通の実際、その重要性を学びます。

子どもたちを森に

平成29年度から、小中学生への環境教育も行っています。ある日の様子を紹介します。会場となる七ヶ宿町の山林に到着した白石市内の学校に通う14名の子どもたちと先生。海藤さんは「森の教室」で、まずSDGsの話を行います。

それから、スギの幼齢林に移動して、子どもたちは剪定バサミでつる切り体験し、次にスギの若齢林に移動して手鋸で間伐を行

います。班に分かれ、5人掛かりで1本を倒した後、伐倒木を2人用鋸で2mに造材し、それを運んで小川の橋にします。子どもたちは森の木が木材として使えるようになることを実感し、こうした体験を通して自主的に考えることを学びます。

◆ SDGs達成に向けて、子どもたちが様々な場面で



学校林整備での集合写真
(前列左から3人目が海藤さん、後列右端が筆者)

森と関わり、森に入る機会を創出することは、とても意義があります。海藤さんは言います。

「日常的に森と関わる中で、日々変化している自然を体感しています。豊かな自然を育んできた原点は『自然共生』という日本の暮らしにありまます。『子どもたちを森に!』というスローガンは、すべての現場で、未来の森づくりのために我々がやらなければならないことだと思えます」

*まとめ

宮城県フォレスター 佐々木周一

事

私たちのチャレンジ!

例

儲かる林業をつくる! 「セーザイゲーム」 熊野林星会「三重県」

熊野の木のファンを増やす

熊野林星会は、「地域社会に貢献し、熊野の木のファンを増やす」を理念に三重県熊野市を中心に活動している団体で、川上から



ゲーム開始前にルールを説明
(写真右は三重大学の山本研究員)

川下までの関係者21名の会員で構成されています。活動の特徴は、熊野材を活用したイベントを行うなど、一般の方々との交流を中心に行っているところです。今回は、

その中で、当会が三重大学と共同開発した「セーザイゲーム」について紹介します。

三重大学と共同でゲームを開発

平成27年度に、三重大学と地域の森林資源活用検討を行う機会があり、この中で、将来を担う子どもたちが林業への理解を深める取り組みが大切であると感じ、林業、木材産業を遊びながら学ぶことができる、「セーザイゲーム」の開発

を検討し始めました。

開発にあたっては、誰もが分かりやすく林業、木材産業の流れを理解できるように、三重大学地域拠点サテライト・東紀州サテライトの山本研究員と当会で試行錯誤を重ねました。平成29年度に「セーザイゲーム」として初めて地域のイベントに出展し、小学生を対象とした体験会を開催しました。現在では、県内外のイベントに参加するなど活動を広げています。

製材所の経営をゲームで体験

「セーザイゲーム」の内容を簡単に説明します。この



丸太の仕入れ体験(競りの様子)。売り子の掛け声とともに、買い手が競り合う



得点に応じて得た
仮想通貨（ノジー）を
お菓子と交換



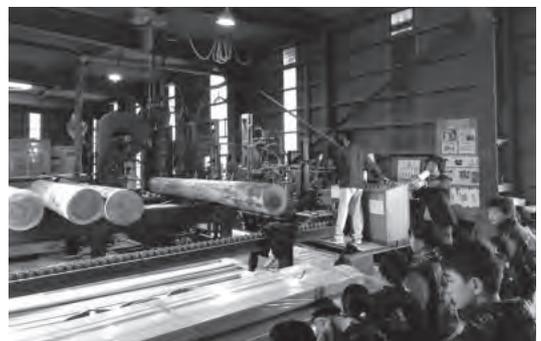
木取り（製材加工）体験。
仕入れた材の木取りを
パズル感覚で行う

ゲームは、いくつかの
体験（遊び）を通して
木材産業の仕組みを学
べる参加型のプログラ
ム群で、原木市場で重
要となる「目利き」の
要素や、製材業で重要
である「木取り」を遊
びながら体験する製材
所経営シミュレーショ
ンゲームです。また、
ゲーム後に実際の現場
を見学することによっ



原木市場にて、材の目利きを説明

て、より深くその
内容が理解できる
プログラムとなっ
ています。
実際に子どもた
ちは製材所の経営
者として、①丸太
の仕入れ、②木
取り（製材加工）、
③販売（売上高の
集計）などを疑似
体験し、仕入れと
販売の差である利
益に応じた得点を
競い合います。ま
た、ゲームの最後



製材工場にて、実際に製材される様子を見学

今まで開催した多くのイベント
で、子どもたちが目を輝かせて
ゲームに夢中になっていたことが
印象的でした。参加した子どもた
ちからは、「木取りはパズルみた
いで楽しい」「節がない木材が高
価だとわかった」「元玉と二番玉
の違いが理解できた」といった意
見が寄せられ、木材を身近に感じ、
地域材の理解や認識を深めるきつ
かけになっていると実感していま
す。また、当会の会員もイベント
の運営等に関わることで、会員間



会員写真（右から3人目が筆者）

の団結力が高まるとともに、改め
て地域林業への理解を深めること
にも繋がっています。

◆
これからも、「セーザイゲーム」
などの木育を軸とした活動により、
熊野の木のファンを増やし、次代
を担う子どもたちが、森や木に親
しみをもち、将来的に地域の担い
手として活躍してもらおうきつかけ
になればと考えています。

*まとめ
会長 野地伸卓

事

私たちのチャレンジ！

例

杣人だからこそ！ 観光地の景観を整備 対馬林業研究会「長崎県」

対馬の活性化に 取り組む

私たちが活動している長崎県対馬市は、福岡市から124 km、韓国から50 km離れた、九州の北西部に位置し、南北に82 km、東西に18 kmと細長い、人口約3万人の離島です。島の約9割を森林が占めており、林業や原木シイタケ生産のほか、豊かな水産資源を活かした漁業など、農林水産業が昔から盛んに行われてきました。

対馬林業研究会は昭和52年に発足し、現在は林業・木材業に関心のある34名の会員で構成され、島内の人々に「対林会」の愛称で親しまれています。農林業だけでなく、建設業、清掃業など様々な業種の会員が所属し、林業を通じて

対馬の活性化に取り組んでいます。

「杣人」だからこそできる 整備ボランティア

私たちは、林業のプロ「杣人」だからこそできる、観光地内の支障となる樹木の伐採や草刈りの整備ボランティアを実施しています。

平成30年まで、対馬には多くの韓国人観光客が来島し、その数は観光客全体の半数以上でしたが、現在は激減してしまいました。そのような中、今年度はGOTOキャンペーンが追い風となり、日本人観光客が増え、より観光客を呼び込むよう島を挙げて取り組んでいましたが、相次ぐ自然災害などにより、肝心の史跡等の観光地整備が追いついていない状況でした。



女性が1人でも通れる程度の明るさを目安に登山道を整備



休憩中に会員同士で技術を指導し合う



会員のほかに地域の方々も作業に参加

また、対馬では若者を中心とした人口流出が大きな問題となっています。観光客に対馬に来てもらうからには、対馬を楽しんでもらい、好きになってほしいという想いと、対馬が観光地として発展し、子どもたちが将来残ってくれる、誇れる故郷にしたいという想いから、対林会では令和元年度から観光地を整備する活動を行っています。

令和2年度には、対馬市の文化財である「ひめかみやま姫神山砲台跡」へ続く登山道の整備と、姫神山展望台の景観支障木伐採を実施しました。登山道は、樹木が覆い被さり、薄暗い状態でしたが、伐採・枝葉の整理をしたところ、見違えるように明るくなりました。また、展望台や広場の景観を遮る樹木を伐採したことで、

対馬の特徴である雄大なリアス式海岸が見渡せる美しい眺めも取り戻すことができました。活動中、散策していた観光客がその雄大な景色に足を止めて、写真を撮るなど楽しんでいく様子に達成感を感じました。

地域が求める 活動のための

この活動は、地元テレビや新聞でも紹介され、SNSに投稿すると、お褒めの言葉や、他の観光地もやってほしいなどの意見もいただき、大きな反響がありました。こうした「地域が求める地域のための活動」を対林会を目指しています。

令和2年度総会をもって会長が代わり、また40年間に在籍した会員を含め、長年、対林会を引っ張ってきた方々が退会し、世代交代が行われました。今後も先輩方が



ボランティアに参加した会員と「姫神山展望台」から見えるようになった景色をバックに

培ってこられた技術や想いを受け継ぎつつ、新しい発想で、地域のニーズを敏感に捉えながら、「**人**」だからできる地域貢献を続け、多くの人に愛される対馬にしていきたいと思っています。

*まとめ
会長 久和英史

Tree house Project

(ツリーハウスプロジェクト)

本荘由利森林組合林業研究会「秋田県」

建築関係の大学生との 共同プロジェクト

秋田県の森林面積は約84万haで
県土の72%を占め、スギ人工林の
面積も約37万haと全国一を誇って
います。しかし、人口減や高齢化
による森林管理の不備が徐々にあ

らわれており、全国一のスギ人工
林面積を有しているのにもかかわらず、
再造林率は20%前後と非常
に低い水準にあるというのが現状
です。

私たち本荘由利森林組合林業研
究会も会員の平均年齢が74歳と、
高齢の会員が多数所属しており、

会員の多くが自身の所有する森林
の将来を憂えています。

そこで、平成14年に開催され
た「環鳥海・未来の森林プラット
フォーム」をきっかけにして、地

元の建築関係の大学生を主体とし
た「Tree house Project」(ツリー
ハウスプロジェクト)を立ち上げ、

若年層の林業への参加促進と地域
住民との交流、木材の新たな活用
法を模索するための活動を始めま
した。

事

私たちのチャレンジ!

例



手すりの補修作業。改築・補修も繰り返し実施



ツリーハウス製作の様子



現在まで、のべ2,400人ほどが製作に参加



学生と当研究会会員。女性が多く参加

ツリーハウスの製作を!

活動の場として、当研究会会員の山を提供し、そこにある資源を



完成したツリーハウス。
平成14年から複数棟を製作



ツリーハウス内でバーベキュー

用いてツリーハウスを製作することになりました。学校で学んだ知識

を実践して、ツリーハウスの設計を行い、それに基づいた素材の選定、素材そのものの伐採・収穫も



木工教室



森林教室

学生自らが行います。

ほかに、山を散策して生態系を調査したり、キノコの植菌や山菜採りを通して植生を観察し、それぞれが生息する上で適正な環境を読み取るなど、自然環境についての学習も実施しました。

そこで得た知識を生かして、小学生向けの木工教室や森林教室をこれまでに15回ほど実施し、地元住民との交流やさらに若い世代に林業の魅力を伝える活動も積極的に行っています。

地域のモチベーションに

森林所有者や地域住民の多くが林業から興味を失いつつある中、若者が積極的に関わりを持つとうとする姿を見て、新たなモチベーションとなつていきます。

また、このプロジェクトに参加した学生からは「チェーンソーで伐木するところから自分たちで設計したものづくりを実際に行い、紐の結び方から力学まで大学では学べないたくさんのことを学んだ」といった声も聞かれ、学生の多くが卒業後に一級建築士の資格

を取得したり、コンクールで賞を受賞する等の実績を上げています。さらに、卒業生にはオリンピックの会場建設に携わるなど、業界にも大きな影響を与えています。

業界のイメージアップを

森林・林業の若返りやその理解促進のためには、幼少期からの「木育」及び「森育」が重要です。前述した木工教室や森林教室もその一環としてさらに推進し、子どもたちが林業に触れる機会を増やしたいと考えています。

また、本プロジェクトには女性も多数参加していますが、林業は未だに男性の仕事、きつい・汚い・危険のいわゆる「3K」のイメージが強いようです。そういった林業に対するネガティブなイメージを払拭するために、女性の活躍をさらにアピールし、業界全体の活性化につなげていきたいと思えます。

*まとめ

事務局 本間康太

事

私たちのチャレンジ!

例



国産木材体験ツアーの造材研修



国産木材体験ツアー「山の木から家の木へ」に参加した学生たち（令和元年度）

高校生対象の「スマート林業」研修 日光地区木材流通研究会「栃木県」

人材育成に力を注ぐ

栃木県北西部の日光市と鹿沼市で活動する日光地区木材流通研究会（以下、「木流研」という）は平成12年に発足し、林業、原木市場、製材業、材木店、建築設計と

川上から川下まで網羅した国産材にこだわるメンバーで構成されています。

皆が知恵を出し合い、何でもできることが木流研の強みで、特に力を入れていることが人材育成です。これまで、県内外の学校を対

象に研修会を開催し、林業・木材産業への理解促進を図ってきました。

ここ数年間は、県外の専門学校生を対象に「山の木から家の木へ」と銘打った国産木材体験ツアーを実施し、林業・木材産業の大切さに

ついて理解を促すとともに、地元との交流を深めてきました。

コロナ禍で活動が制限

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が大きく制限される中、6月に第1回定例会が開催されました。その場では国産木材体験



木流研メンバー（一部）。メンバーの一人が経営する原木市場にて

ツアー実施の是非が議論され、メンバー内での意見は分かれましたが、留学生在が半数を占める東京にある専門学校であることから、最終的には学校側からの申し入れにより、残念ながら令和2年度のツアーは中止となりました。

「コロナに負けるな！」 地元高校での研修開催

しかし、7月に開催された総会



ICTハーベスタシミュレーターによる伐倒造材演習

では、会スローガンが「コロナに負けるな！」と採決されるほどメンバーの思いは熱く、ツアーに代わる別の形で人材育成に取り組みないかと県西環境森林事務所へ相談がありました。

そこで、当事務所が間に入り、地元の鹿沼南高校で熱心に林業・木材産業に関して取り組んでいる学科（環境緑地科林業コース）とのマッチングが成立し、授業時間などの制限が多い中、学校側の要望と木流研の思いを叶えるような研修等が検討されました。今後の林業労働力の確保、作業の安全性向上や労働強度の軽減等といった課題を解決し、林業の魅力を発信



▲ドローン操作演習
▶森林整備事業へのドローン活用について地元業者から説明を受ける



することで若者の就業を促したいとの観点から、県が今後取り組みうとしている「スマート林業」に関する研修会開催で調整が進められました。

そして、12月中旬に約30人の生徒を対象に研修を実施しました。当日は、多くのメンバーが参加し、冒頭で木流研の林業・木材産業に対する熱い思いを生徒に伝えました。内容はICTハーベスタのシミュレーションやドローン操作研修で、生徒は興味津々で操作に取り組み、研修後のアンケートでは「人が入れない場所や広大な森林の測量にドローンは非常に有効

だと思った」「機械化により安全性や労働強度の軽減化が図られていることがわかった」など好評でした。先生からは令和3年度もぜひ研修をお願いしたいとの要望をいただくなど、大変有意義な研修会となりました。

◆
林業・木材産業の魅力を発信する木流研の活動支援を通して、新たな林業技術の普及

には県と林研グループが両輪となって取り組むことが重要であることが認識できました。県の施策に対していつも素早く対応していただくなど、林業振興に心強い味方でもある木流研の活躍にこれからも期待しています。

*まとめ

県西環境森林事務所

林業普及指導員 亀山雄揮



生徒たちとの記念撮影。研修後のアンケートでは、林業に関わる仕事に就きたいと思う生徒の割合が増えるなど、林業に対する意識の変化が見られた

事

私たちのチャレンジ！

例

オオムラサキの舞う 里山林を再生 自然とオオムラサキに親しむ会「山梨県」

オオムラサキの
国内有数の生息地を守る

特定非営利活動法人自然とオオムラサキに親しむ会（以下、「本会」）は、平成20年から北杜市長坂町でオオムラサキの生息地を守る活動をしています。設立初期は、オオムラサキ採集者に対する保護協力の呼び掛けや、オオムラサキを広く知ってもら



国蝶オオムラサキ。北杜市長坂町は国内有数の生息地



アズマネザサの刈り払い作業



植林作業。3000本/haを目安に、これまで9万本以上の広葉樹を植林



下刈り作業に精を出す会員

うために観察会等を開催していましたが、オオムラサキの生育には、樹液の出るクヌギやコナラ、幼虫が葉を食べるエノキが必要なことから、荒廃した里山林を再生する活動に着手しました。

ササ刈りとクヌギの植林

最初に手掛けたのは、長い間放

置され人の背丈以上に繁茂したアズマネザサの刈り払いでした。鎌での手刈りでは硬いササに太刀打ちできず、肩掛け式のエンジン刈払機を導入したものの刈り刃がすぐに切れなくなり、炎天下での作業は大変辛いのがありました。しかし、鬱蒼とした林が美しい林に変わっていく様子を見て、辛さ

を忘れるほどの達成感がありました。また、北杜市では松枯れ病の影響もあり、平成21年頃からアカマツ林の皆伐が多くみられるようになったため、跡地にクヌギの苗を植える活動を始めました。こうした活動を地道に続けていくと、北杜市に移住してきた方々から参加の申し出がありました。はじめは作業に不慣れでしたが、経験を積んだ現在では主要な



軽トラック 140 台分/年の薪を生産・販売。作業の対価として無償で譲り受けた原木がほとんど。すぐ完売の人気

出し、グループ導入等、植林に向けた準備を進めました。手配した苗木は低温保存され7月までは発芽しないため、7月でも植林は可能です。植林は、本団体に地元企業社員が加わった40〜100人で行います。令和元年にはボーイスカウトの子どもたちも

多数参加しました。植林作業は概ね7月まで行い、年間1万〜1万2000本の苗木を植えています。8〜12月までは下草刈りとササの刈り出しを、年間30〜50haで行っています。そのほか、枯損木や風倒木の伐倒、玉切り、片づけを行い、景観的にも美しい里山林に再生しています。

増加 オオムラサキ生息数の

地元の長坂中学校と甲陵中学校では、昭和55年からオオムラサキ

*まとめ

会長 跡部治賢

も大きく取り上げられ北杜市政報告会でも発表されました。この中学生による長年の努力の成果は、本会の里山再生活動にとって大きな励みとなっています。これからも、これまで培ってきた林業の知識や技術、故郷の里山林への思いを仲間たちと共有しながら、里山再生活動を続けていきたいと思えます。

里山林の所有者を探し、協定書を締結

里山林再生の手順として、まず皆伐地や荒廃した里山林を探し出し、市役所で図面を入手して法務局で所有者を把握します。北杜市内の所有者であれば自宅を訪ね趣旨を説明し、その土地で作業を行

う同意の協定を締結します。県外の所有者には通知を郵送しますが、宛名不明で戻ってくる場合もかなりあります。こうした場合も諦めずに、登記住所から電話番号を検索するなど連絡先を割り出すこともしています。活動の趣旨を説明すると、ほとんどの所有者は同意してくれませんが、これは本会が取り組んできた活動が、広く地域で認知されているためと考えます。

協定の締結後は、本会の現場責任者が図面と現地を照合し、現場の状況に合わせて、地拵え、刈り



アカマツ林を伐採してクヌギとエノキを植林した場所で個体数が大幅に増加した

この分析結果は、新聞にも大きく取り上げられ北杜市政報告会でも発表されました。この中学生による長年の努力の成果は、本会の里山再生活動にとって大きな励みとなっています。これからも、これまで培ってきた林業の知識や技術、故郷の里山林への思いを仲間たちと共有しながら、里山再生活動を続けていきたいと思えます。

事

私たちのチャレンジ!

例

早生樹（センダン） 育林への挑戦

諸塚村林業研究グループ会議「宮崎県」

「林業立村」を掲げる村

宮崎県諸塚村は、林業を中心とした「林業・椎茸・畜産・お茶」を村の四大基幹産業とし、これらの産業を組み合わせた農林複合経営を行ってきました。人口は1427人（令和3年5月1日現在）で、標高150〜800mの



針葉樹と広葉樹を混植してきた結果、モザイク状の林相となる

山間に82の集落が点在する平地の乏しい地理的環境にあります。また、「林業立村」を掲げ、相互扶助の精神に基づく自助、互助、共

助、公助のバランスの取れた村づくりを進めてきました。

村内の人工林資源は収穫期を迎え、伐採面積の増加もあり、造林や下刈りが必要な面積が増加して



村内の校庭に生えるセンダン

いますが、人口減少や高齢化の影響も重なり労働力不足等の課題は大きくなるばかりです。そこで

従来の造林樹種であるスギやヒノキに比べ、短伐期での収益が見込まれる早生樹種への関心が高まっていたこともあり、



大川家具工業会への視察



記念植樹。第1回で340本、第2回・第3回で100本ずつ植林。第3回は、グループで育成した苗木を使用

林業経営の改善および林業技術の向上・研究を目的に、当林研グループでは平成29年11月から早生樹種（センダン）育林への挑戦をはじめました。

家具製作会社への視察と センダン植樹

センダンに関する情報収集をし
ていく中で、センダンを使い、家



芽かき研修



芽かきは春と夏の2回行う(矢印)。芽かき箇所からの腐れ予防のため、癒合剤の塗布も必要

具製作を行っている会社
が福岡県大川市にあると
いうことを知り、宮崎県

福岡事務所の協力を得て

「大川家具工業会」で視

察研修を行いました。外

国産材の輸入減少による

国産材需要の高まりがあ

るということで、国産セ

ンダンは4万円/m³での

取引実績があるという紹

介もあり、とても驚かされました。

センダン需要に可能性を感じた

私たちは、センダン育林の先進地

である熊本県天草市「梅檀の未来

研究所」を訪問し、センダンは標

高500m以下の耕作放棄

地などが適地であることを

学びました。標高1000

m級の山々に囲まれた諸塚

村では厳しい条件ではあり

ましたが、「まずは植えて

みよう」という思いから、

平成30年3月を皮切りに毎

年1カ所ずつ(0.1~0.

3ha)大川家具工業会と合

同で記念植樹を行っていま

す。



センダンの実。落ちた実を採取し、実生苗を育てる

芽かき研修と育苗

センダンを通直に仕立てるため

に「芽かき」という作業が大変重

要になるということで、熊本県天

草市より講師を招き、芽かきの

実地研修も行いました。今では会

員が講師役となり地元の小学生な

どを対象に森林学習の一環とし

て、センダンの育林について説明

をする機会も出てきています。ま

た、実生苗の自給自足にもチャレ

ンジしています。種子を発芽させ

ることは比較的容易にできました

が、成長の度合いは種子により大

きく変わることが分かり、安定し

た育苗はこれからの課題でもあり

ます。



センダンコンテナ苗の試験

◆ 現在、センダンの育林について興味を示す村民も増えてきており、今後は、これまでの検証を生かし村内でのセンダンの普及や家具材としての出荷を目指し、センダンが本村の新しい林業経営として確立できるようさらなる技術の習得に向け活動を継続していきたいと思えます。

*まとめ
諸塚村林業研究グループ会議
事務局

事

私たちのチャレンジ！

例

定年をきっかけに 里山の山守を！ 安養寺薪割り倶楽部「福井県」

里山に「Tターン」

安養寺薪割り倶楽部は、四方を山に囲まれた福井県越前市安養寺町の薪ストーブ愛好家たちが共同で薪づくりをするため、平成25年に発足しました。当初は6名、現在は10名で、安養寺町地区全体で

活動を行っています。倶楽部の

キヤッチフレーズは「里山にTターン」で、Tターンは「定年をきっかけに暮らし方を積極的に変える」という意味の造語です。人生100年時代の今、里山に活動の場を求め、Tターンすることで

新たな世界が広がります。

現代版の里山づくり

安養寺町には、ゴルフ場開発計画が頓挫したため越前市の所有となった里山の広葉樹林があります。ここを現代版



里山整備で出た枝をチップパーで処理。自家消費以外のチップ用途も検討中



原木シイタケ生産



道ぎわの手入れ



安養寺薪割り倶楽部のメンバー。10名のうち3名は県外からのTターン

の里山に再生しようという計画が、平成15年に始まりました。はじめは、行政（市）と市民の協働組織「郷の森・里楽」が市民参加の薪づくりの定例活動をしていましたが、令和元年に本倶楽部が中心となり、里山づくりを継承するこ



▲地元小学生を対象とした自然教室（森林散策）
 ◀森林散策で訪れるツリーハウスも整備

とになりました。ゴルフ場予定地跡地の一画につくられた「みどり」と自然の村」の広葉樹林を中心に、薪や原木シイタケの生産、炭焼き、鎮守の森づくり、山ぎわの手入れなどを行っています。

里山は、薪炭利用などを通じて人々の暮らしと関わり、資源が循環することで、豊かな自然環境が維持されてきました。今では里山に薪を求める人は少ないと思いますが、雑木の間を散策し、山菜を摘み、緑の風に癒され、鳥やセミの鳴き声に何かを感じられる、現代のニーズに即した里山を創出したいと願っています。整備した里山で小学生の自然教室を開催したところ、地元の子たちでも雑木林に入った経験がなかったと聞いて驚き、改めてその重要性を実感しました。

地域の山守として

安養寺町には180haの人工林があります。3年前から地域全体で森林整備事業を開始し、本倶楽部は「軽トラとチェーンソーで」C材の出荷を試みました。令

和2年は間伐材を150tほどチップ工場に搬入し、多い時は1人1日3tを搬入しました。ウィズコロナの時代、里山にTターンした人にとってハードルの低い自伐型林業は大変魅力的です。われわれは調査、研究、工夫でスモール林業スタイルを改善しながら持続可能なものにし、地域の山守事業を担っていくと考えています。

外部との交流で元気な山村

伝統的な山村は、どちらかというと閉鎖的な共同体です。楽しく元気な山村であるためには、外との交流を楽しめることがカギだと思います。活動の中心である「みどり」と自然の村」の広葉樹林は市有林であり、保健保安林や水源かん養保安林に指定されています。この森林を中心とした森林資源活用や山守事業を進めていくため、倶楽部のメンバーが中心となり、新たに「越前さと山スタイル」を立ち上げました。より多くの人々との交流を図っていきたく考えています。

人口は減少していますが、活発に外との交流も行い訪れた人も元気が出る里山づくりを地域一体となって楽しんでいきます。

*まとめ
 代表 上野嘉蔵



スギの搬出作業

事

私たちのチャレンジ！

例

キリ玉植苗で 森林緩衝帯の整備 会津里山森林資源育成研究会「福島県」

県開発の新しい苗を 育成

福島県会津地方の桐は古くから地域の特産物として知られ、平成元年度以降、福島県の生産量は全国1位であり、品質の高さにおいても市場で高い評価を得ています。しかし、近年は生産量が減少し、特に平成23年以降は商業的な苗木生産が途絶えていることから、将来の桐木材資源の枯渇が懸念されています。そこで、私たちが会津里山森林資源育成研究会では、「キリ玉植苗」という、福島県が開発した新しい苗の育成に取り組んでいます。

これは、キリの苗が病気に弱く、従来の分根による育成方法では親の病気が苗に伝染する可能性もあるため、種子から育成し、苗の茎や葉ができるだけ土に触れないようにする方法です。本会は、この技術を県の林業技術現地適応化事業において習得しました。そして、この技術を使ってキリの苗木を生産し、桐資源の造成を図ることにしました。

また、会津地方は県内でも自然の豊かな地方として知られ、会津の里山景観は観光資源としても重要ですが、近年は住民の高齢化等に伴い、里山の森林や集落周囲の畑地等の手入れが行き届かなくなっています。その結果、人が住む集落と野生鳥獣が棲む森林との境界が不明瞭となり、里山における野生鳥獣の農作物等への被害が増加し、大きな社会問題となっています。このため本会は、キリ玉

苗を活用して里山の整備にも取り組みたいと考えました。

「森林緩衝帯」の整備

このような事情を踏まえて本会では、キリの特性である、成長が大変速く、野生鳥獣が好む実を付けない点等に着眼し、野生鳥獣被

育成中のキリ玉植苗。
3月に播種し、病気や高温に注意しながら育てる。円内のように出荷前（秋）に地上部を切除してから植栽するため、食害や雪害を回避できる



害の防止を図るための「森林緩衝帯」への活用を行うことにしました。

森林緩衝帯とは、集落と野生鳥獣が生息する森林との間に設ける見通しの良い森林のことで、これにより、野生鳥獣が集落に近づきにくくなります。この森林緩衝帯



キリ玉植苗の植栽作業。小型重機を使用

にキリを植栽することで、キリの速い成長（1年で4m伸びることも）により早期に緩衝帯機能を発揮でき、キリにとってもこまめに下刈りが行われるために健全な生長が期待でき、森林所有者にとっても将来の収入につながるようなことのメリットがあります。

本会は、苗木生産事業所、造林・

伐採事業所、製材事業所等に所属しているメンバーからなり、森林・林業・木材産業の上流から下流までの一連のスキルを有している中で、苗木の生産にとどまらず、植栽とそれ以降の育林作業も行って、森林緩衝帯整備に取り組むこととしました。地元集落の住民が高齢化して植栽やその後の施業が困難

となつていことから、需要はあると見込んでいます。
なお、作業に際しては、可能な範囲で地元集落等からも作業員を雇用する等雇用創出への貢献も考えています。

キリ育成と 里山整備を両立

私たちの事業は始まったばかりですが、木材資源の造成と里山整備を両立する優れた方法と考えています。幸い、事業計画の内容が



会津里山森林資源育成研究会メンバー。
「キリ玉植苗等を活用し、会津地域の里山森林の保全と利用に資する」ことを目的に令和3年1月に設立

評価され、福島県会津地方振興局の「地域創生総合支援事業（サポート事業）」に採用され、補助金を受けることができました。今後は、この補助金を活用しながら事業を軌道に乗せ、近い将来は本事業を会津地方全域で行い、桐資源造成と里山森林整備への貢献を図りたいと考えています。

＊まとめ

会津里山森林資源育成研究会
星比呂志

事

私たちのチャレンジ!

例

安全講習会・ミツマタ植栽・環境教育

北条女性林業研究グループ 「風早の森ころぼっくる」 【愛媛県】

林業未経験からの スタート



チェーンソー操作体験



フェリングレバー操作体験

に位置し、多島美あふれる瀬戸内海に面する自然豊かな地域です。

松山市とその周辺の3市町から

松山市の北部に位置する北条地

区はブナ原生林が残る高縄山の麓

なる中予地域には、地元の北条林

業研究会を含め、6林研グループ

で組織する中予地区林業研

究グループ連絡協議会（以

下「中予林研連絡協議会」

があり、地域の林研グループが連携しながら、様々な活動を行っています。

こうした中、中予林研連絡協議

会の坂本会長をはじめ、地元の男

性林研グループ会員、さらには県

林業普及指導員の強力な後押しが

あり、平成31年2月、新たに北条

女性林業研究グループ「風早の森

ころぼっくる」(以下「北

条女性林研」)が設立さ

れました。森林インスト

ラクターでもある井上会

長を中心に、主に口コミ

で集まった会員15名(平

均年齢40代)はほとんど

が主婦で林業の経験もあ

りませんが、女性の豊か

な感性とアイデアを出し、

豊かな森づくりと明るく



北条女性林業研究グループメンバー

豊かに暮らせる地域社会の実現を目標に活動しています。

安全講習会の開催

活動の第一歩として、林業に関する知識・技術を習得するため、中予林研連絡協議会の協力のもと、



ミツマタ植栽



ニホンジカの出現（手前がミツマタ）



園児へのシイタケ植菌指導

＊まとめ
 中予地区林業研究
 グループ連絡協議会
 事務局

や情報発信、林業技術の習得を続けるとともに、女性ならではのアイデアで地域活性化につながる活動を実施してまいります。



ミツマタ植栽試験打ち合わせ

ミツマタ植栽実証試験

北条地区でもシカによる食害は深刻ですが、シカはミツマタを食べないという話を聞き、「本当かな、嘘じゃろ」「じゃ、食べるか調べてみよう」ということで、令

性に改めて気づかされたところで。安全講習会は、令和2年にも2回実施し、今年度も2回の開催を予定しています。

ほかに、架線系集材、森林作業道作設、ICT活用などの県主催の研修会にも積極的に参加し、林業の知識が増えると同時に、活動も活発化しています。

和2年11月に実証試験を始めました。シカの嗜好性を見るために試験地を設け、購入した100本のミツマタをスギ植栽木の周りを囲むように植栽しました。

観測の結果、定点カメラではシカの出現が確認できましたが、ミツマタを食べた形跡はありませんでした。しかし、ミツマタで囲んだ中のスギ植栽木には食害が見受けられました。

◆ 北条女性林研では、地域環境教育
 園・小中学校の子どもたちに対する森林環境教育にも参加・指導しています。シイタケ植菌体験のほかに、木製のおもちゃづくり、木片の重さ比べといった県産材の活用拡大にも努めています。会員は主婦がほとんどなので、子どもへの対応は慣れたもの。教え方も上手で、子どもたちも毎回楽しく体験しています。

今後も観測を続け、ミツマタの効果を実証できれば、スギやヒノキの苗木の周りにミツマタを植栽したり、林研の研修会等を通じてこの食害対策を普及していきたい

北条女性林研では、今後も森林に関する調査・研究

事

私たちのチャレンジ!

例

優良材生産技術の研鑽と 担い手の育成

新見市新林業経営者クラブ「岡山県」

個々の会員が
森林・林業のプロに

新見市新林業経営者クラブ（以下「本会」）は、新見市内の森林所有者が中心となって、林業経営

や生産技術の研鑽、林業経営者の育成・確保に努めることなどを目的に、昭和51年に結成されました。

会員は20名で、40代から80代までの幅の広い年代で構成され、「個々の会員が森林・林業のプロとして

活動することが重要」と
庄宣行会長は話します。

木材まつりの 特別市に出材

結成当時から本会は、林業先進地視察やほかの林業グループとの交流を行い、枝打ちや間伐など施業技術の向上を図ってきました。この成果を確

優良丸太共進会」

を昭和60年から開催し、目揃いや色

つや、枝打ちや間伐などの保育管理、市況による商品価値について、審査を行っていました。

平成29年度からは新見地区木材組合が主催する「新見地区木材まつり」で特別市が行

われるようになったことから、独自の共進会は取りやめ、この特別市に積極的に出材し、優良材生産技術の研鑽を続けています。特別市に出すことで、生産した素材の材価や市場のニーズが分かるようになり、林業経営に対する意識



新見地区木材まつりの特別市（競り風景）。毎年4000mを超えての出材がある。2021年も10月下旬に開催

向上が見られるようになりました。「全国有数のヒノキ材の生産地である本県の一翼を担うとともに、新見地域での木材の安定供給に向



間伐体験（女性林研との連携）

「けてこれからも努力したい」と会員たちは意気込みます。

環境教育と担い手の育成

本会では、森林・林業について

多くの方に興味を持ってもらうための取り組みも行っています。

員が補助しながら丸太の輪切りを体験しました。

毎年開催している地元小

学校の森林・林業教室

では、森林体験をする

フィールドの整備、間伐

等の林業体験の指導、木

工教室の材料づくりなど、

本会の各会員が得意な分

野で活動をしています。

また、令和2年6月に

地元小学校の5・6年生

が「ふるさとキャリア教

育」として、植林された

木が伐採されてから売ら

れていくまでの一連の流

れを学習することになっ

た際には、本会が素材生

産現場での説明を担当し

ました。作業道の作設状

況や高性能林業機械の作

業状況を見学してもらい、

機械の処理能力の説明や

自分たちが経験してきた

林業の話を子どもたちに

分かりやすく伝えました。

一通り見終わった後で、

チャップスを着用し、会



チェーンソーによる丸太の輪切り体験



会員が林業の経験談を子どもたちに伝える



「企業と協働の森づくり活動」での少花粉スギ植栽



高性能林業機械による作業を見学

新見市神郷女性林研グループが

毎年開催している地元小

学校の森林・林業教室

では、森林体験をする

フィールドの整備、間伐

等の林業体験の指導、木

工教室の材料づくりなど、

本会の各会員が得意な分

野で活動をしています。

また、令和2年6月に

地元小学校の5・6年生

が「ふるさとキャリア教

育」として、植林された

木が伐採されてから売ら

れていくまでの一連の流

れを学習することになっ

た際には、本会が素材生

産現場での説明を担当し

ました。作業道の作設状

況や高性能林業機械の作

業状況を見学してもらい、

機械の処理能力の説明や

自分たちが経験してきた

林業の話を子どもたちに

分かりやすく伝えました。

一通り見終わった後で、

チャップスを着用し、会

さらに、企業が社会貢献活動の一環として森づくりに取り組む

「企業と協働の森づくり活動」では会員がスタッフに加わり、安全

作業の指導や、森づくりの大切さ

や木材利用の必要性について、啓

発も行っています。主体的な活動

でなくても、ほかのグループや団

体と連携した取り組みを展開する

ことで、本会の活動を継続してい

ます。

◆

新見地域では、持続的な森林経

営の推進や木質バイオマス発電の

稼働等、森林・林業に係る様々

な活動や事業が展開されています。

本会の取り組みが、新見地域の将

来の森林・林業の振興と、担い手

の育成・確保に繋がっていくこと

を期待しています。

*まとめ

備中県民局 新見地域森林課

総括副参事 岡田和久

(所属は執筆時)

卷末資料



林業で働くために

林業の仕事いろいろ

林業の仕事には大きく分けると、森林を植えて育てたり、木を伐る仕事を担う民間の林業会社、森林所有者を組合員として地域の森林経営を担う森林組合の2つがあり、木材産業では、木材を取り扱う原木市場や木材会社があります。最近では企業団体の先進化・多様化が進み、新しいスタイルを模索する林業の現場も増えてきています。

林業会社

森林所有者から立っている木を買って伐採して市場などに販売する形態が多いです。また、造林を専門に行う会社もあります。最近では、建設業から参入している会社も見られます。

森林組合

森林所有者を組合員とした協同組合です。森林がある全国のほとんどの地域をカバーしており、約600あります。

国や都道府県の森林林業関係の助成制度の受け皿として、地域の森林経営の推進役として様々な業務を担っています。

組合によっては森林作業班を独自に持ち、さらには原木市場や木材加工施設や販売施設を営んでいるところもあり、その形態は様々です。

原木市場

林業会社や森林組合から集荷された木材の市を開催して製材工場などに販売しています。近年は山の現場から直接大型工場へ直送されるケースも増えてきたことから、木材の供給先と需要先を情報で繋ぐ新たな形態が期待されています。

木材会社

従来の丸太から板や柱を挽く製材工場、ラミナと呼ばれる木片から柱などを生産する集成材工場、丸太を剥いて重ねて板を生産する合板工場、柱材を建材に加工するプレカット工場などがあります。近年は大型化が進んでいます。一方、家具や小物をつくる会社も多くあります。

Q&A

Q 体力的な条件などはありますか？

A 林業機械の導入が比較的進み、男女の体力差が問われない作業環境になってきています。また森林施業プランナーなど比較的体力を重視しない職種もあります。

Q 危険な作業が多く、安全面で心配です。

A 安全を重視した林業技術を習得する研修制度があります。また、安全防護装備も近年急速に普及しています。機械の改良も進み安全に対する意識は高まっていますが、常に自分自身が安全への意識を持って仕事に取り組むことが大切です。

Q 女性の場合、トイレや着替えはどうしていますか？

A 移動式トイレを導入する会社もあります。また着替えについては移動中に公衆トイレなどへ立ち寄るなどの配慮をする会社もあるようです。

Q 女性特有の体調不良や産休・育休にも対応してくれますか？

A 会社ごとの判断になりますが、女性を採用する会社の多くはそうした配慮ができていところが多い傾向があります。会社を選ぶ際によく確認してみましょう。

林業で働くための方法

就職を希望しているなら…

■ 森林の仕事ガイダンス

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会です。会場には、参加都道府県の林業労働力確保支援センターや森林組合連合会が相談ブースを設け、各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明、参加者からの相談に応じます。



森林の仕事ガイダンス風景。写真は森林組合の林業現場で働く女性。このガイダンスで先輩の説明を聞いて東京から就業した女性もいます。

■ インターンシップ

地元の森林組合や林業会社で短期間のインターンシップを体験して、就業を決めるケースもあります。各都道府県の林業労働力確保支援センターにお問い合わせ下さい。

もっと林業を学んでから就職を考えたいなら…

■ 林業大学校等への進学

近年、林業就業者の育成を目的とした林業大学校等（教育・研修機関）の設立が相次いでいます。多くが1年制あるいは2年制で、高校卒業を入学資格としている例が多いようです。2021年末時点で、21校となっており、さらなる新設が予定されています。林業大学校等は都道府県等が設置・運営している学校です。また4年制大学への編入受験資格の取得が可能な学校もあります（専修学校）。

10～20名程度を定員としているところが多く、実習に力を入れており、森林・林業に関する様々な資格取得が可能です。卒業後は林業現場の即戦力として活躍している若者が全国で増えています。

■ 大学への進学

森林・林業に関する学科・科目がある大学は、2021年末時点で全国に32校あります。森林科学科や生物環境科学科など学科の名称は大学によって様々で、各大学の地域性や伝統など、その大学ならではの強みや個性が見られます。大学で学んだ知見を生かし、卒業して林業の仕事に就く若者も少なくありません。



森林・林業に関する学科・科目設置校一覧表（林業大学校・専門職短期大学）

令和3年4月現在

都道府県	学校名	郵便番号	所在地	電話番号	修学・ 研修期間	該当学科等
北海道	北海道立北の森づくり専門学院	078-8381	旭川市西神楽1線10号	0166-75-6161	2年制	林業・ 木材産業学科
青森	青い森林業アカデミー	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字新道46-56 (青森県産業技術センター林業研究所研修棟)	017-763-4022	1年制	
岩手	いわて林業アカデミー	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560-11	019-697-1536	1年制	
秋田	秋田県林業研究研修センター (愛称:秋田林業大学校)	019-2611	秋田市河辺戸島字井戸尻台47-2	018-882-4511	2年制	秋田県林業 トップランナー 養成研修
山形	山形県立農林大学校	996-0052	新庄市大字角沢1366	0233-22-1527	2年制	林業経営学科
群馬	群馬県立農林大学校	370-3105	高崎市箕郷町西明屋1005	027-371-3244	2年制	農林業 ビジネス学科 (森林コース)
福井	ふくい林業カレッジ	918-8567	福井市江端町20-1	0776-38-0345	1年制 3ヵ月	長期コース 短期コース
長野	長野県林業大学校	397-0002	木曾郡木曾町新開4385-1	0264-23-2321	2年制	林学科
岐阜	岐阜県立森林文化アカデミー	501-3714	美濃市曾代88	0575-35-2525	2年制	森と木の クリエーター科 森と木の エンジニア科
静岡	静岡県立農林環境専門職大学 短期大学部	438-0803	磐田市富丘678-1	0538-24-8771	2年制	生産科学科 林業コース
京都	京都府立林業大学校	629-1121	船井郡京丹波町本庄土屋1番地	0771-84-2401	2年制	森林林業科
兵庫	兵庫県立森林大学校	671-4142	宍粟市一宮町能倉772-1	0790-72-2700	2年制	専攻科
奈良	奈良県フォレスターアカデミー	639-3113	吉野郡吉野町飯貝680	0746-42-8100	2年制 1年制	フォレスター学科 森林作業員学科
和歌山	和歌山県農林大学校	649-2103	西牟婁郡上富田町生馬1504-1	0739-47-4141	1年制	林業研修部 (林業経営 コース)
鳥取	日南町立にちなん中国山地 林業アカデミー	689-5224	日野郡日南町多里782-2	0859-84-0070	1年制	林業専修科
島根	島根県立農林大学校	690-3405	飯石郡飯南町上来島1207 島根県中山間地域研究センター内	0854-76-2100	2年制	林業科
徳島	とくしま林業アカデミー	770-0045	徳島市南庄町5丁目1-9	088-635-7812	1年制	
高知	高知県立林業大学校	782-0078	香美市土佐山田町大平80	0887-52-0784	1年制	基礎課程 短期課程 専攻課程
熊本	くまもと林業大学校	862-8570	熊本市中央区水前寺6丁目18-1 (熊本県林業振興課)	096-333-2444	1年制	
大分	おおいた林業アカデミー	879-5114	由布市湯布院町大字川北899-91 大分県林業研修所	0977-85-2488	1年制	
宮崎	みやざき林業大学校	883-1101	東臼杵郡美郷町西郷田代1561-1 宮崎県林業技術センター	0982-66-2888	1年制	

注：学校教育法に基づく専修学校や道府県等の研修機関として条例等で位置付けられており、修学・研修期間が1～2年間で、年間を通じて1,200時間以上の履修時間を設けている学校等を掲載。

参考：林野庁HP

令和3年度未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧①

グループ名	活動内容	対象学校
北海道	北海道林業グループ協議会	高校生等の林業就業促進現地活動
宮城県	仙南フォレストクラブ 津山町林業研究会	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動
秋田県	北秋田森林・林業振興会	高校生等の林業就業促進現地活動
山形県	庄内林業研究会	林業グループの林業振興活動支援
福島県	福島県林研グループ連絡協議会 館岩グリーンフォレスト	林業グループの林業振興活動支援 林業グループの林業振興活動支援
茨城県	★茨城県林業研究グループ連絡協議会(8頁)	高校生等の林業就業促進現地活動
栃木県	★みかも千年の森づくり会(12頁) 栃木県林業振興協会	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動、林業グループの林業振興活動支援
群馬県	群馬県林業研究グループ連絡協議会 NPO法人ロガーズ	社会人等のインターンシップ 林業グループの林業振興活動支援
埼玉県	埼玉県森林協会 林業研究グループ部会	高校生等の林業就業促進現地活動
千葉県	千葉県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業促進現地活動
東京都	特定非営利法人青梅林業研究グループ	高校生等の林業就業促進現地活動
神奈川県	★なかい里山研究会(38頁)	林業グループの林業振興活動支援
山梨県	山梨県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業促進現地活動
石川県	穴水町林業研究会	林業グループの林業振興活動支援
長野県	河北郡林業研究会 長野県林業研究グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動支援 高校生等の林業就業促進現地活動
	南信州林業研究会	高校生等の林業就業促進現地活動
	★木曾林業研究グループ連絡協議会(16頁)	高校生等の林業就業促進現地活動
	長野市中条地区林業研究グループ	高校生等の林業就業促進現地活動
	北信州の森林と家をつなぐ会	高校生等の林業就業促進現地活動
岐阜県	四賀林研グループ ★加子母優良材生産クラブ(22頁)	林業グループの林業振興活動支援 高校生等の林業就業促進現地活動
	付知町優良材生産研究会	林業グループの林業振興活動支援
静岡県	★大井川地区林業研究協議会(42頁)	林業グループの林業振興活動支援

★は、本事例集第1部で紹介しているグループ。グループ名の下に数字は紹介頁をさす。

令和3年度未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧②

グループ名	活動内容	対象学校
愛知県 愛知県森林協会林業研究グループ分科会 ★愛知県指導林家連絡協議会（26頁） 額田林業クラブ	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動 林業グループの林業振興活動支援	田口高校・猿投農林高校 田口高校・猿投農林高校
三重県 熊野林星会	高校生等の林業就業促進現地活動	紀南高校ほか
京都府 京都府林業研究グループ連絡協議会 樹々の会	高校生等の林業就業促進現地活動 林業グループの林業振興活動支援	北桑田高校
和歌山県 和歌山県林業研究グループ連絡協議会 和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会	高校生等の林業就業促進現地活動 林業グループの林業振興活動支援	りら創造芸術高校・南部高校龍神分校ほか
鳥取県 佐治林業研究グループ	林業グループの林業振興活動支援	
島根県 特定非営利活動法人もりふれ倶楽部	社会人等のインターンシップ、林業グループの林業振興活動支援	
岡山県 岡山林業未来会	高校生等の林業就業促進現地活動、林業グループの林業振興活動支援	
広島県 ひろしま森林施業フロンナー会	林業グループの林業振興活動支援	
山口県 山口県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業促進現地活動、林業グループの林業振興活動支援	山口農業高校・萩商工高校・大津緑洋高校 城西高校神山校
徳島県 かみやま林業振興会	高校生等の林業就業促進現地活動	上浮穴高校
愛媛県 ★上浮穴林業研究グループ連絡協議会（30頁） 愛媛県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動	西条農業高校・伊予農業高校
福岡県 黒木町林業振興会	高校生等の林業就業促進現地活動	八女農業高校
熊本県 みやこ森林研究グループ 上益城地区林業研究グループ連絡協議会 ★八代地域林業研究・普及連絡協議会 やつしろ林業研究グループ部会（34頁）	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動	行橋高校 矢部高校 八代農業高校泉分校
大分県 球磨地区普及・林研グループ連絡協議会 大分県林研グループ連合会	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動	芦北高校 南陵高校
宮崎県 門川町林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業促進現地活動	大学生
鹿児島県 鹿児島県林業研究グループ連絡協議会 知覧町たけのこ振興会	高校生等の林業就業促進現地活動 高校生等の林業就業促進現地活動	伊佐農林高校 薩南工業高校

★は、本事例集第1部で紹介しているグループ。グループ名下の数字は紹介頁をさす。

林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧

全国林業研究グループ連絡協議会は、46都道府県のエ業研究グループ連絡協議会（一部名称が異なる）を会員とし、傘下には森林所有者および林業に従事する者等を構成員として、森林づくり、人づくり、地域づくりを担っている自主的なグループです。

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
全国林業研究グループ連絡協議会	107-0052	東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル	03-3583-8407
北海道林業グループ協議会	060-0004	札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 林業会館内	011-261-9022
青森県林業研究グループ連絡協議会	039-1528	三戸郡五戸町大字浅水字陣場 92-2 三八地方森林組合内	0178-67-2003
岩手県林業研究グループ連絡協議会	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山 3-560-11 県林業技術センター内	019-698-1337
宮城県林業研究会連絡協議会	981-3602	黒川郡大衡村大衡字はぬ木 14 県林業技術総合センター内	022-345-2816
(一社) 秋田県森と水の協会 林業後継者部会	010-0941	秋田市川尻町字大川反 170-169 森林環境会館内	018-883-1252
山形県林業グループ連絡協議会	990-2473	山形市松栄 1-5-41 山形県森林協会内	023-666-4331
福島県林研グループ連絡協議会	960-8043	福島市中町 5-18 林業会館内	024-521-3245
茨城県林業研究グループ連絡協議会	311-0122	那珂市戸 4692 県林業技術センター内	029-295-7318
栃木県林業振興協会	320-8501	宇都宮市塙田 1-1-20 県林業木材産業課内	028-623-3273
群馬県林業研究グループ連絡協議会	371-0854	前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル 6F	027-280-6254
埼玉県森林協会林業研究グループ部会	357-0212	飯能市井上 138 木楽里内	042-970-2007
千葉県林業研究会グループ連絡協議会	-	(*お問合せは全国林業研究グループ連絡協議会へ)	03-3583-8407
東京都林業研究グループ連絡協議会	190-0181	西多摩郡日の出町大久野 7852 東京都森林協会内	042-597-2881
神奈川県林業研究グループ連絡協議会	243-0018	厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 神奈川県森林協会内	046-240-0500
新潟県林業研究会連絡協議会	950-8570	新潟市中央区新光町 4-1 県林政課経営指導係内	025-280-5326
富山県林業研究グループ協議会	930-0004	富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 4 階 県森林政策課内	076-444-3387
石川県林業研究グループ連絡協議会	929-0325	河北郡津幡町字加賀爪 1 湊端良子様方	076-254-5337
福井県山林協会普及部会林研分科会	910-0003	福井市松本 3 丁目 16-10 福井県職員会館ビル 2F	0776-23-3753
山梨県林業研究グループ連絡協議会	409-2734	南巨摩郡早川町雨畑 1 (早川町森林組合内)	0556-20-5100
長野県林業研究グループ連絡協議会	380-0936	長野市岡田町 30-16 林業センター (一社) 長野県林業普及協会内	026-226-5620
岐阜県林業グループ連絡協議会	501-3714	美濃市曾代 88 県立森林文化アカデミー内	0575-35-2535
静岡県林業研究グループ連絡協議会	420-8601	静岡市葵区追手町 9 番 6 号 県庁西館 9 階 (公社) 静岡県山林協会内	054-255-4488
愛知県森林協会林業研究グループ分科会	460-0001	名古屋市中区丸の内 3-5-16 愛知県林業会館内	052-961-9730
三重県林業研究グループ連絡協議会	514-0003	津市桜橋 1 丁目 104 番地 (林業会館) 林業技術普及協会内	059-228-0924
滋賀県林業研究グループ連絡協議会	520-2144	大津市大萱 4 丁目 17 番 30 号 林業協会内	077-599-4572
京都府林業研究グループ連絡協議会	604-8424	京都市中京区西ノ京樋ノ口町 123 京都府森林組合連合会内	075-841-1030
大阪府		(事務局なし)	
兵庫県林業研究グループ連絡協議会	671-2515	宍粟市山崎町五十波 430 森林林業技術センター内	0790-62-2118
奈良県林業研究グループ連絡協議会	636-0202	磯城郡川西町結崎 862-29 衣田雅人 様方	0745-43-1327
和歌山県林業研究グループ連絡協議会	640-8585	和歌山市小松原通 1-1 和歌山県庁林業振興課内	073-441-2961
鳥取県林業研究グループ連絡協議会	680-0461	八頭郡八頭町郡家 763 番地 10 (八頭中央森林組合内)	0858-72-1111
島根県林業研究グループ連絡協議会	690-8501	松江市殿町 1 番地 県農林水産部林業課内	0852-22-5153
岡山県林業研究グループ連絡協議会	700-8570	岡山市北区内山下 2-4-6 県林政課内	086-226-7451
広島県林業研究グループ連絡協議会	730-8511	広島市中区基町 10-52 県農林水産局森林保全課内	082-513-4840
山口県林業研究グループ連絡協議会	753-8501	山口市滝町 1 - 1 県森林企画課内	083-933-3460
徳島県林業研究グループ連絡協議会	771-0134	徳島市川内町平石住吉 209-5 (公社) 徳島森林づくり推進機構内	088-679-4103
香川県林業普及協会	760-0008	高松市中野町 23-2 香川県森林組合連合会内	090-7626-1788
愛媛県林業研究グループ連絡協議会	791-1205	上浮穴郡久万高原町菅生二番耕地 280-38 県林業研究センター内	0892-21-2266
高知県林業研究グループ連絡協議会	783-0055	南国市双葉台 7 番地 1 高知県森林組合連合会内	088-855-7050
福岡県林業研究グループ連合会	839-0827	久留米市山本町豊田 1438-2 福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター内	0942-45-7868
佐賀県林業研究グループ連絡協議会	840-0212	佐賀市大和町池上 3408 佐賀県林業試験場 普及指導課内	0952-62-0054
長崎県林業研究グループ連絡協議会	854-0063	諫早市貝津町 1122 番地 6 林業会館内	0957-25-0177
熊本県林業研究グループ連絡協議会	862-8570	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1 熊本県森林整備課内	096-333-2441
大分県林研グループ連合会	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県林務管理課内	097-506-3823
宮崎県林業研究グループ連絡協議会	880-8501	宮崎市橋通東 2 丁目 10 番 1 号 県森林経営課内	0985-26-7154
鹿児島県林業研究グループ連絡協議会	892-0816	鹿児島市山下町 9-15 鹿児島県林業改良普及協会内	099-223-8550
沖縄県林業研究グループ連絡協議会	900-8570	那覇市泉崎 1-2-2 県森林管理課内	098-866-2295

編集スタッフ—————岩淵 光則
齊藤 恵巳
石井 圭子
高橋 香織
吉田 憲恵

レイアウト—————森本 唯

装丁—————クリエイティブ・コンセプト (江森恵子)

体験 発見 林業の仕事 未来の担い手を育てよう 林業就業促進事例集

発行—————令和4年3月15日

発行者—————齋藤 正

発行所—————全国林業研究グループ連絡協議会(全林研)
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル
電話 03-3583-8407
FAX 03-3583-8465
webサイト <http://www.ringyou.or.jp/rinken/index.html>

編集—————全国林業改良普及協会

印刷・製本所—————三報社印刷株式会社

本冊子は、林野庁「令和3年度未来の林業を支える林業後継者養成事業」を活用して作成しています。

Printed in Japan

- 本書に掲載される本文、写真のいっさいの無断複写・引用・転載を禁じます。
- 著者、発行所に無断で転載・複写しますと、著者および発行所の権利侵害となります。



本冊子は、林野庁「令和3年度未来の林業を支える林業後継者養成事業」を活用して作成しています